『中外物価新報』の論説・雑報等一覧

――一八七九年・一八八〇年――

吉川　容

前回（「『中外物価新報』の論説・雑報等一覧――一八七六年～一八七八年――」『三井文庫論叢』第三三号）に引き続き、一八七九年・一八八〇年の『中外物価新報』に掲載された論説・雑報等の一覧を掲載する。一覧は、「第1表　『中外物価新報』の記事タイトル一覧」と「第2表　記事の内容」の二つの表からなる。

第1表は、定型定例化された相場速報ならびに商況概況以外のすべての記事のタイトル一覧であり、第2表は、それらの記事のおおよその内容を知るための要約・引用である。第1表と第2表とは、号数（同一号に複数の対象記事がある場合にはアルファベットの記号を付加）で対照することができる。ただし、第1表に掲載した記事すべてに対して第2表の記入があるわけではない。第1表の作成にあたっては、もとの記事にタイトルが付けられている場合には原則としてそのまま採用し「　」でくくった。一覧作成にあたって作成者がタイトルを付した場合には【　】でくくった。

この時期の『中外物価新報』の紙面構成・論説の特徴・一覧への採否の基準などについては、前回の解説を参照されたい。

第1表　『中外物価新報』の論説・雑報等標題一覧　（その1）

年	月	日	号数	面	記事の標題
1879年	1月	4日	158	1	【明治11年中の商況】
		8日	159 a	1	【明治11年中の商況】（続き）
		8日	159 b	4	「〔倫敦〕生糸景況アールス、ジウホール社中ノ報告抄訳」
		11日	160 a	1	【明治11年中の商況】（続き）
		11日	160 b	1	【米国生糸現況】
		15日	161	1	【明治11年中の商況】（続き・了）
		18日	162 a	1	【本年１月の商況】
		18日	162 b	4	【グラスゴー及びスコットランド西部に於ける破産】
		22日	163 a	1	【東京商法会議所定式会傍聴筆記】
		22日	163 b	4	「1878年上半年度伊太利貿易ノ景況」
		25日	164	1	「聞保険会社設立」
		29日	165	1	【我国生糸の欧州製糸を圧倒し得べきの時なり】
	2月	1日	166	1	「横浜外国商法会議所定式会の略況」
		5日	167 a	1	【東京商法会議所定式会傍聴記】
		5日	167 b	1	【1月中の台湾積入】
		5日	167 c	4	「日本小麦」
		8日	168	1	「洋銀相場の騰貴を救済するの論」
		12日	169	1	「仏蘭西大博覧会の概況」
		15日	170 a	1	【内地物産の興隆】
		15日	170 b	4	【上海に於ける木綿製造所設立計画】
		15日	170 c	4	「在清国厦門某報告書々抜」
		19日	171 a	1	【内地物産の興隆】（続き）
		19日	171 b	2	「里昂府糸商よりの通信」
		22日	172	1	「横浜洋銀取引所の創立」
		26日	173 a	1	【内地物産の興隆】（続き）
		26日	173 b	4	【貸借に関する法律の不備】
	3月	1日	174 a	1	【東京商法会議所臨時会議　商標条例下問回陳書】
		1日	174 b	4	【マルセイユ港における生糸繭玉商売の慣例】
		5日	175 a	1	【内地物産の興隆】（続き）
		5日	175 b	1	「倫敦米商仲買フラセル社中千八百七十八年の年報抄訳」
		8日	176 a	1	【政府は商政の途を改め干渉保護の主義を廃止すべし】
		8日	176 b	1	【里昂よりの通信】
		12日	177 a	1	【輸入品供給地の景況及び相場出帆船積荷等に十分な注意を払うべきこと】
		12日	177 b	1	【紐育よりの通信】
		15日	178	1	【商売仲間組合を立て規約を設るの得失】

第1表　『中外物価新報』の論説・雑報等標題一覧　（その2）

年	月	日	号数	面	記事の標題
1879年	3月	19日	179	1	「海外直輸出の利益」
		22日	180	1	【木綿糸輸入の急増と国内紡績業の企画】
		26日	181	1	【商売仲間組合を立て規約を設るの得失】（続き）
		29日	182	1	【米国綿業の興隆と英国綿貿易の衰退】
	4月	2日	183	1	【米の栽培】
		5日	184	1	【米の栽培】（続き）
		9日	185	1	【米の栽培】（続き）
		12日	186	1	「読商務局雑報有感」
		16日	187 a	1	【米の栽培】（続き）
		16日	187 b	1	【紐育よりの通信】
		19日	188	1	【器械綿紡績の損益計算】
		23日	189 a	1	【洋銀低下の理由】
		23日	189 b	4	「台湾赤砂糖輸出調」
		26日	190	1	【支那地方への物産陳列縦覧所の設置】
		30日	191	1	【本邦米の輸出】
	5月	3日	192	1	【本邦米の輸出】（続き）
		7日	193	1	【横浜洋銀相場の変動】
		10日	194	1	【1878年理財及商売の沿革結果】
		14日	195	1	【内外生糸市場の景況】
		17日	196	1	【内外生糸市場の景況】（続き）
		21日	197	1	【上海における銭荘】
		24日	198	1	【上海における銭荘】　（続き）
		28日	199	1	「共進会」
		31日	200 a	1	「樺太にて魯人昆布を採取する事」
		31日	200 b	1	【欧州為替相場の変動】
	6月	4日	201 a	1	「樺太にて魯人昆布を採取する事」（続き）
		4日	201 b	1	【五月中入津米豆深川蔵入調】
		7日	202 a	1	「条約改正論」
		7日	202 b	1	【内地養蚕の景況】
		11日	203	1	【香港と日本の関係】
		14日	204	1	【香港知事ヘンネッシー氏演説筆記】
		18日	205 a	1	【香港知事ヘンネッシー氏への答詞】
		18日	205 b	1	【蚕種製造者への警告】
		18日	205 c	1	【各地の養蚕景況】
		21日	206	1	「日支の貿易」
		25日	207 a	1	「香港商業の概況」
		25日	207 b	1	【蚕種製造者への警告・再論】

第1表　『中外物価新報』の論説・雑報等標題一覧　（その3）

年	月	日	号数	面	記事の標題
1879年	6月	28日	208 a	1	【貿易振興上の一大障碍物】
		28日	208 b	1	【支那米の輸入】
		28日	208 c	2	【山形県下の景況】
	7月	2日	209 a	1	【製糸家に欧州市場動向への注意を喚起す】
		2日	209 b	1	【支那米輸入の事続報】
		5日	210 a	1	「香港商業の概況」（続き）
		5日	210 b	1	「伊太里通信抜抄」
		9日	211	1	【利息制限法について】
		12日	212 a	1	【条約改正に関する横浜外国商業会議所意見】
		12日	212 b	1	「陸奥鰺ヶ沢商売の景況」
		16日	213 a	1	【米価騰貴の近況と支那米輸入状況】
		16日	213 b	2	「陸奥鰺ヶ沢商売の景況」（続き）
		19日	214 a	1	【条約改正に関する横浜外国商業会議所意見】（続き）
		19日	214 b	2	【倫敦通信】
		19日	214 c	2	【羽前置賜郡通信】
		23日	215 a	1	【条約改正に関する横浜外国商業会議所意見】（続き）
		23日	215 b	1	「六月六日出巴里通信抜粋」
		23日	215 c	1	「陸奥鰺ヶ沢商売の景況」（続き）
		26日	216 a	1	【条約改正に関する横浜外国商業会議所意見】（続き）
		26日	216 b	4	【倫敦生糸商イートン商社報告書】
		30日	217 a	1	【条約改正に関する横浜外国商業会議所意見】（続き）
		30日	217 b	1	【海上保険会社設立】
		30日	217 c	1	「陸奥鰺ヶ沢商売の景況」（続き）
	8月	2日	218 a	1	【条約改正に関する横浜外国商業会議所意見】（続き）
		2日	218 b	1	【米価騰貴の原因】
		2日	218 c	4	【米国における鉱蝋油の発見】
		6日	219 a	1	「海上保険会社の開設」
		6日	219 b	1	【新潟で米騒動か】
		6日	219 c	4	【清国1878年外国貿易の計算】
		9日	220	1	「海上保険会社の開設」（続き）
		13日	221	1	【西洋形商船船長運転手機関手試験規則について】
		16日	222	1	【西洋形商船船長運転手機関手試験規則について】（続き）
		20日	223	1	【西洋形商船船長運転手機関手試験規則について】（続き）
		23日	224	1	【六月中各港輸出入一覧表】
		27日	225	1	「米作の概況」

第1表　『中外物価新報』の論説・雑報等標題一覧　（その4）

年	月	日	号数	面	記事の標題
1879年	8月	30日	226	1	【物産売買の戦争】
	9月	3日	227	1	【物産売買の戦争】（続き）
		6日	228 a	1	【勧農局明治十年全国農産表】
		6日	228 b	1	【ニューメキシコでの銀鉱発見】
		6日	228 c	4	【麻苧に生糸の外見性質などを付する方法の発明】
		10日	229 a	1	【勧農局明治十年全国農産表】（続き）
		10日	229 b	1	【日本銀貨の香港内通用】
		10日	229 c	1	【一円銀貨の貿易貨幣化】
		10日	229 d	1	【外国形船舶乗組海員試験に関し商法会議所で建言を検討】
		13日	230 a	1	【欧州の生糸市況】
		13日	230 b	1	【一円銀貨通用の布告】
		13日	230 c	1	【英国凶作の見込み】
		13日	230 d	1	【各地二百十日の天候】
		13日	230 e	2	【三井蔵入札売の景況】
		17日	231 a	1	【明治11年度各港輸出入年度表】
		17日	231 b	2	「洋銀の景況」
		20日	232 a	1	【明治11年度各港輸出入年度表】（続き）
		20日	232 b	2	【三井蔵の米入札売買】
		24日	233	1	【円銀貨の貿易銀としての通用実現】
		27日	234	1	【明治11年度各港輸出入年度表】（続き）
	10月	1日	235 a	1	【明治11年度各港輸出入年度表】（続き）
		1日	235 b	2	【欧州における生糸需要の減退】
		4日	236	1	【生命請合会社の事】
		8日	237 a	1	【生命請合会社の事】（続き）
		8日	237 b	1	【海外相場動向】
		8日	237 c	1	「伊太利養蚕収穫」
		11日	238	1	【条約改正に関する東京商法会議所建言】
		15日	239 a	1	【条約改正に関する東京商法会議所建言】（続き）
		15日	239 b	2	【東京株式取引所が金銀貨幣売買を開始】
		18日	240 a	1	【条約改正に関する東京商法会議所建言】（続き）
		18日	240 b	2	【各地秋作の景況】
		22日	241	1	【製茶共進会会議略記】
		25日	242 a	1	【製茶共進会会議略記】（続き）
		25日	242 b	1	【近海船賃騰貴】
		25日	242 c	1	【石炭油の相場】
		25日	242 d	1	【諸船入津速報】

第1表　『中外物価新報』の論説・雑報等標題一覧　（その5）

年	月	日	号数	面	記事の標題
1879年	10月	25日	242 e	1	【野州足利町物産取引所取扱高】
		25日	242 f	1	【株式取引所金銀貨幣売買手数料】
		25日	242 g	2	【倫敦紅茶相場】
		29日	243 a	1	【商人に結合力が求められること】
		29日	243 b	1	【支那本年生糸の出来】
		29日	243 c	1	【欧州凶歉と米国からの穀類輸出】
	11月	1日	244 a	1	【条約改正に関する外国新聞論説への批判】
		1日	244 b	1	【倫敦の諸商品相場】
		1日	244 c	1	【英国農産品の凶歉】
		5日	245	1	【条約改正に関する外国新聞論説への批判】（続き）
		8日	246 a	1	「牧畜性命受合会社を創立すべき論」
		8日	246 b	1	【朝鮮農業の景況】
		12日	247	1	「米況」
		15日	248	1	「外国直取引」
		19日	249 a	1	「外国直取引至難の弁」
		19日	249 b	4	「支那及日本ノ貨主諸君ニ告グ」
		22日	250	1	「正金銀行」
		26日	251	1	【正金銀行営業の難易】
		29日	252	1	【生糸繭共進会審査結果】
	12月	3日	253	1	【商法学校の必要性】
		6日	254	1	【商法学校の必要性】（続き）
		10日	255 a	1	【里昂における生糸取引事情】
		10日	255 b	2	【船賃の昂騰】
		13日	256	1	【里昂で販売する糸の量目欠減の理由】
		17日	257	1	【全国作割ならびに新米東京入着対前年比較表】
		20日	258 a	1	「米国生糸の景況」
		20日	258 b	1	【里昂生糸市場の見通し】
		24日	259 a	1	「茶貿易衰盛概計表」
		24日	259 b	1	【里昂生糸相場】
		27日	260 a	1	【東京商法会議所議員米況報告】
		27日	260 b	1	【11月中各港輸出入表】
		27日	260 c	1	【明治十二年の東京雑貨市況回顧】
1880年	1月	4日	261	1	【明治十二年の商況】
		7日	262	1	【東京商法会議所議員米況報告】（続き）
		10日	263 a	1	【明治十二年の商況】（続き）
		10日	263 b	1	【東京商法会議所議員米況報告】（続き）
		10日	263 c	2	【倫敦市況】

第1表　『中外物価新報』の論説・雑報等標題一覧　（その6）

年	月	日	号数	面	記事の標題
1880年	1月	14日	264	1	【明治十二年の商況】（続き）
		17日	265	1	【明治十二年の商況】（続き）
		21日	266 a	1	【明治十二年の商況】（続き）
		21日	266 b	1	【会社銀行実際報告要領】
		21日	266 c	2	【ボール・レヴェル号出港】
		21日	266 d	2	【足利市場の取引】
		24日	267 a	1	「金融の現況」
		24日	267 b	1	【欧州の穀物需給】
		24日	267 c	1	【会社銀行実際報告要領】（続き）
		24日	267 d	2	【外国商館による米の買入】
		24日	267 e	2	【各地の天候】
		28日	268 a	1	「米国今日の富饒は如何して得たるもの乎」
		28日	268 b	1	【会社銀行実際報告要領】（続き）
		28日	268 c	2	【12月中各港輸出入表】
		28日	268 d	2	【山城丹波丹後の稲豆綿収額】
		31日	269 a	1	【東京商法会議所の重要物品調査】
		31日	269 b	1	【会社銀行実際報告要領】（続き）
	2月	4日	270 a	1	「米国輸出入」
		4日	270 b	1	【農家の現米貯蔵】
		4日	270 c	2	【米国綿試作の成果】
		4日	270 d	2	【兵庫より通信】
		4日	270 e	2	【会社銀行実際報告要領】（続き）
		7日	271 a	1	「陶器の輸出」
		7日	271 b	1	【外国商館による唐糸買入】
		7日	271 c	1	【名古屋で西洋酒が流行】
		7日	271 d	1	【会社銀行実際報告要領】（続き）
		7日	271 e	2	【外国商人の米買入】
		7日	271 f	2	【台湾糖の積出し】
		7日	271 g	2	【大坂の米市況】
		14日	272 a	1	「三井物産会社社長益田孝謹て同業諸君に告ぐ」
		14日	272 b	1	【九十九里濱の漁業】
		14日	272 c	1	【香港の市況】
		14日	272 d	1	【紐育からの石炭油積出し】
		14日	272 e	1	【エスカンヒヤ号の航海】
		14日	272 f	1	【会社銀行実際報告要領】（続き）
		18日	273 a	1	【米国加里福尼（カリフォルニア）小麦産出の近況】
		18日	273 b	2	【房総常陸漁業の景況】

第1表　『中外物価新報』の論説・雑報等標題一覧　（その7）

年	月	日	号数	面	記事の標題
1880年	2月	18日	273 c	2	【日本銀貨の香港での通用を求める願書】
		18日	273 d	2	【近日の米価進騰】
		18日	273 e	2	【英国人による日本酒買入】
		21日	274 a	1	【銀貨相場の騰貴】
		21日	274 b	1	【米価益々騰貴の勢い】
		21日	274 c	1	【長野県下の近況】
		21日	274 d	1	【生糸商人への注意】
		21日	274 e	1	【印刷局工場第六回報告書】
		21日	274 f	1	【米国ペンシルバニアの石油】
		21日	274 g	1	【横浜商業会議所設立願聞届】
		21日	274 h	1	【紐育での金融逼迫】
		21日	274 i	1	【兵庫港の有米】
		21日	274 j	1	【尾三州の麦不作の懸念】
		21日	274 k	1	【会社銀行実際報告要領】（続き）
		25日	275 a	1	「米国致富の源因如何」
		25日	275 b	1	【東京商法会議所第一定式会】
		25日	275 c	1	【唐糸横浜着値概算】
		25日	275 d	1	【会社銀行実際報告要領】（続き）
		25日	275 e	2	【金融の景況】
		25日	275 f	2	【四日市の金融】
		25日	275 g	2	【大坂の金融】
		25日	275 h	2	【種油の市況】
		25日	275 i	2	【滋賀陶器の減産】
		28日	276 a	1	「米国致富の源因如何」（続き）
		28日	276 b	1	【倫敦の市況】
		28日	276 c	1	【銚子・鹿島・九十九里浜の市況】
		28日	276 d	1	【会社銀行実際報告要領】（続き）
		28日	276 e	1	【横浜正金銀行営業開始】
		28日	276 f	1	【深川への米水揚げ高】
		28日	276 g	1	【長崎の商況】
		28日	276 h	1	【函館の米価】
	3月	3日	277 a	1	【各地の米況】
		3日	277 b	1	【堂島米商会所の市況】
		3日	277 c	1	【降雪の影響】
		3日	277 d	1	【昨年下半季中各港輸出入表】
		3日	277 e	1	【米船の火災】
		3日	277 f	1	【紐育石油輸出高】

第1表　『中外物価新報』の論説・雑報等標題一覧　（その8）

年	月	日	号数	面	記事の標題
1880年	3月	3日	277 g	1	「桑港缶詰鱒の商況」
		3日	277 h	1	【会社銀行実際報告要領】（続き）
		6日	278 a	1	【越後酒の東京回漕】
		6日	278 b	1	【府下の金融】
		6日	278 c	1	【石巻近況】
		6日	278 d	1	【遠州の茶作】
		6日	278 e	1	【滋賀日報農事通信】
		6日	278 f	1	「倫敦米況一月一日の報」
		6日	278 g	1	【日本銀貨通用に関する香港商法会議所の上申】
		6日	278 h	1	【台湾糖の輸出】
		6日	278 i	1	【別紙付録「東京横浜諸物価平均」発刊】
		6日	278 j	1	【初鯡の相場】
		10日	279 a	1	【香港商法会議所討論筆記】
		10日	279 b	2	【堂島米商会所で南京米受渡を開始】
		10日	279 c	2	【越後酒の東京回漕・再論】
		10日	279 d	2	【海外市場での日本生糸の価格上昇】
		13日	280 a	1	【香港商法会議所討論筆記】（続き）
		13日	280 b	1	【茶の市況】
		13日	280 c	2	【海外出店商人の会合】
		13日	280 d	2	【米国での日本物品の流行】
		17日	281 a	1	「大坂堂島米商会所規則の改正」
		17日	281 b	1	【府下の金融】
		17日	281 c	1	【東京米穀三業組合白米小売相場の掲載】
		17日	281 d	1	「岩代若松の景況」
		17日	281 e	2	【紐育の市況】
		17日	281 f	2	「アルレスヂュフール氏里昂市場概論の略」
		19日	282 a	1	「外国米を限月売買の受渡に用ひしめば如何なる結果を生せん乎」
		19日	282 b	1	「信州上田去る十六日出の通信」
		19日	282 c	1	【会社銀行実際報告要領】（続き）
		24日	283 a	1	「外国米を限月売買の受渡に用ひしめば如何なる結果を生せん乎」（続き）
		24日	283 b	1	【英国における昨年中の破産】
		24日	283 c	1	【日本堅炭に外国人の人気】
		27日	284 a	1	【セント・チャアレス号火災の後日談】
		27日	284 b	1	「丹波篠山去る二十二出の通信」
		27日	284 c	1	【アルコールの試作】

第1表　『中外物価新報』の論説・雑報等標題一覧　（その9）

年	月	日	号数	面	記事の標題
1880年	3月	27日	284 d	1	【伊予松山高機縞同業者の結社】
		27日	284 e	1	「英国茶の商況」
		27日	284 f	1	【英国よりの輸送品高】
		31日	285 a	1	「大坂堂島近況」
		31日	285 b	1	【ツラウアンコール号座礁】
		31日	285 c	1	【大坂の金融】
		31日	285 d	1	【オレンドル号出港】
		31日	285 e	1	【秋田県の市況】
		31日	285 f	1	【紐育よりの石炭船】
	4月	7日	286 a	1	【米価の騰貴】
		7日	286 b	1	「大坂堂島近況」
		7日	286 c	1	【支那と魯西亜の葛藤】
		7日	286 d	1	【甘蔗絞機械の新発明】
		7日	286 e	1	【欧米での日本物品の流行】
		10日	287 a	1	【米価と銀貨相場】
		10日	287 b	1	【堂島米商会所違約処分の広告】
		10日	287 c	1	【紐育よりの石油船の出港】
		14日	288 a	1	「商估社会の一大変動」
		14日	288 b	1	【米商会所・株式取引所の売買停止】
		14日	288 c	2	【東京商法会議所議事規則の改正】
		14日	288 d	2	【紅茶の騰貴】
		17日	289 a	1	【米商会所及株式取引所の条例改正】
		17日	289 b	1	【限月売買の解け合の状況】
		17日	289 c	1	【解け合い斡旋の困難】
		17日	289 d	1	【兜町蛎殻町の仲買人減少の見込み】
		17日	289 e	1	【兜町蛎殻町両米商会所合併の相談】
		17日	289 f	1	【各地正米の相場】
		17日	289 g	1	【新潟の正米下落】
		21日	290 a	1	【イタリア蚕種の景況】
		21日	290 b	1	【各地米商会所解け合の景況】
		21日	290 c	1	【兜町蛎殻米商会所解け合の状況】
		21日	290 d	1	【正米の市況】
		21日	290 e	1	【銀貨の市況】
		21日	290 f	1	【蛎殻町米商会所仲買営業申出の動向】
		21日	290 g	1	【兜町米商会所仲買営業申出の動向】
		21日	290 h	1	【東京商法会議所臨時会】
		24日	291 a	1	【米商会所の定款申合規則等の改正】

第1表　『中外物価新報』の論説・雑報等標題一覧　（その10）

年	月	日	号数	面	記事の標題
1880年	4月	24日	291 b	1	【東京商法会議所臨時会】
		24日	291 c	1	【限月米・銀貨解け合の状況】
		24日	291 d	1	【両米商会所の仲買営業申出の動向】
		24日	291 e	1	【倫敦通信】
		24日	291 f	1	【ミラノ通信】
		24日	291 g	1	【英国よりの輸送品高】
		24日	291 h	1	【清国の茶不作】
		24日	291 i	1	【米国に於ける絹織物業】
		28日	292 a	1	【紙幣減少の必要】
		28日	292 b	1	【東京株式取引所・横浜取引所再開の見通し】
		28日	292 c	1	【東京銀貨限月解け合状況】
		28日	292 d	1	【大蔵省よりの銀貨払下げ】
		28日	292 e	1	【正金銀行の銀貨貸出】
		28日	292 f	1	【横浜での石油競売】
		28日	292 g	2	【府下金融の景況】
		28日	292 h	2	【3月中各港輸出入表】
		28日	292 i	2	【兵庫米商会所の市況】
	5月	1日	293 a	1	【紙幣減少の必要】（続き）
		1日	293 b	1	【米商会所限月売買再開許可を待望中】
		1日	293 c	1	【兜町米商会所における正米取引高】
		1日	293 d	1	【限月米四月限受渡高】
		1日	293 e	1	【大蔵省よりの銀払下げ続報】
		1日	293 f	1	【正金銀行の銀貨貸出高】
		1日	293 g	1	【赤間関米商会所限月米解合広告】
		5日	294 a	1	【紙幣減少の必要】（続き）
		5日	294 b	1	【東京・横浜取引所の金銀限月売買再開】
		5日	294 c	1	【東京取引所仲買の申出数】
		5日	294 d	1	【府下の景況】
		5日	294 e	1	【朝鮮釜山浦の景況】
		8日	295 a	1	「近今商業の危険なる賭博に等し之を匡済する責果して誰に帰する乎」
		8日	295 b	1	【大蔵省による府下国立銀行有金調査】
		8日	295 c	1	【各地より東京横浜への為替取組急増】
		8日	295 d	1	【北海道西岸の鯡豊漁】
		8日	295 e	1	【新潟の米価高騰】
		8日	295 f	1	【倫敦の商売必迫（パニック）】
		8日	295 g	1	【安値払出米】

第1表　『中外物価新報』の論説・雑報等標題一覧　（その11）

年	月	日	号数	面	記事の標題
1880年	5月	8日	295 h	1	【ミラノよりの通信】
		12日	296 a	1	「近今商業の危険なる賭博に等し之を匡済する責果して誰に帰する乎」（続き）
		12日	296 b	1	【越後米五千石入着】
		12日	296 c	1	【砂糖船横浜へ入津】
		12日	296 d	1	【甲州よりの通信】
		15日	297 a	1	【正貨主義の断行】
		15日	297 b	1	【米穀三業会社出願の払下米実施】
		15日	297 c	1	【新鯡の相場】
		15日	297 d	1	【兜町米商会所仲買の営業願出数】
		15日	297 e	1	【上州の養蚕景況】
		19日	298 a	1	【正貨主義の断行】（続き）
		19日	298 b	1	【府下金融の景況】
		19日	298 c	1	【内国塩問屋会所の取引規則等改正】
		19日	298 d	1	【横浜への砂糖輸入高】
		19日	298 e	1	【東京商法会議所定式会開催】
		19日	298 f	1	【信州上田で米価騰貴】
		19日	298 g	1	【越中伏木の米況】
		19日	298 h	1	【ミラノよりの通信】
		22日	299 a	1	【東京大坂株式取引所並に横浜取引所の金銀貨幣定期売買の差止め】
		22日	299 b	1	【横浜取引所株式限月売買の紛擾】
		22日	299 c	1	【横浜銀貨の取引】
		22日	299 d	1	【内国塩問屋会所の取引規則等改正・訂正】
		22日	299 e	1	【朝鮮釜山浦の景況】
		22日	299 f	1	【朝鮮国釜山港輸出入表】
		22日	299 g	1	【紀州蜜柑の景況】
		26日	300 a	1	「米国桑港四月三十日発の通信」
		26日	300 b	1	【米国における日本物品の人気】
		26日	300 c	1	【川村永之助氏イタリアへ出張】
		26日	300 d	1	【南京米等の輸入】
		26日	300 e	1	【横浜への入港船】
		26日	300 f	1	【横浜商法会議所開会】
		26日	300 g	1	【米穀三業会社出願の払下米実施】
		26日	300 h	1	【山形南村山での雹害】
		29日	301 a	1	【風帆船の航路】
		29日	301 b	1	【横浜取引所株式限月売買の紛擾・続報】

第1表　『中外物価新報』の論説・雑報等標題一覧　（その12）

年	月	日	号数	面	記事の標題
1880年	5月	29日	301 c	1	【電信の不通】
		29日	301 d	1	【海外での日本花卉草木果実の人気】
		29日	301 e	1	【函館の金融切迫】
		29日	301 f	1	【越中伏木の米況】
		29日	301 g	1	【越後地蔵堂町より通信】
		29日	301 h	1	【横浜への入港船】
		29日	301 i	1	【限月米五月限受渡高】
	6月	2日	302 a	1	「英国に於て紙幣交換を挙行したる手続」
		2日	302 b	1	【上州藤岡の養蚕景況】
		2日	302 c	1	【紐育より横浜へ出帆したる船】
		2日	302 d	1	【株式取引所違約処分をめぐり出訴】
		5日	303 a	1	「英国に於て紙幣交換を挙行したる手続」（続き）
		5日	303 b	1	【東京両米商会所・大坂米商会所依然再開せず】
		5日	303 c	1	【三業会社による米割渡】
		5日	303 d	1	【割渡米の米価への影響】
		5日	303 e	1	【上海廈門間電信復旧】
		5日	303 f	1	【信州の養蚕景況】
		5日	303 g	1	【天保銭の通用禁止】
		5日	303 h	1	【豊前中津の米況】
		5日	303 i	1	【米国へ積出しの茶】
		9日	304 a	1	「英国に於て紙幣交換を挙行したる手続」（続き）
		9日	304 b	1	【府下5月の米況】
		9日	304 c	1	【欧州新糸の景況】
		9日	304 d	1	「米国在留協同会商事景況」
		9日	304 e	2	【横浜への入港船】
		9日	304 f	2	【天保銭の通用禁止・取消】
		12日	305 a	1	「米国在留協同会商事景況」（続き）
		12日	305 b	1	【養蚕の景況】
		12日	305 c	1	【上州の製糸業】
		12日	305 d	1	【兜町・蛎殻町両米商会所仲買人数】
		12日	305 e	1	【兜町当月限食合高】
		12日	305 f	1	【越後長岡の養蚕景況】
		12日	305 g	1	【朝鮮釜山浦の景況】
		16日	306 a	1	「米国紙幣の増減」
		16日	306 b	1	【信州の養蚕景況】
		16日	306 c	1	【横浜の柴昆（サイゴン）米】
		16日	306 d	1	【神戸在留支那人による洋銀相場所開設】

第1表　『中外物価新報』の論説・雑報等標題一覧　（その13）

年	月	日	号数	面	記事の標題
1880年	6月	16日	306 e	2	【横浜港の輸出品】
		16日	306 f	2	【欧州の養蚕景況】
		19日	307 a	1	「米国紙幣の増減」（続き）
		19日	307 b	1	【東京商法会議所府下商況報告 5月分】
		19日	307 c	2	【三井蔵にて肥前米入札売】
		19日	307 d	2	【羽後土崎の近況】
		23日	308 a	1	【東京商法会議所府下商況報告 5月分】（続き）
		23日	308 b	1	【神戸外商の米買付】
		23日	308 c	1	【欧州の養蚕景況】
		23日	308 d	1	【兜町米商会所の公告】
		23日	308 e	1	【各地商法会議所の近況】
		26日	309 a	1	「米国紙幣の増減」（続き）
		26日	309 b	1	【上海・廈門間電信再度不通】
		26日	309 c	1	【麦の豊作】
		26日	309 d	1	【横浜への入港船】
		26日	309 e	1	【米国生糸商業会例年会報告】
		30日	310 a	1	【府下の金融逼迫】
		30日	310 b	1	【長野県下の養蚕景況】
		30日	310 c	1	【頼朝丸横浜入港】
		30日	310 d	1	【上海廈門間電信復旧】
		30日	310 e	1	【清国広東郊外で洪水】
		30日	310 f	1	【紐育よりの通信】
		30日	310 g	1	【浅草米蔵払米落札値段】
	7月	3日	311 a	1	【5月中各港輸出入表】
		3日	311 b	1	【風帆船会社設立の願出】
		3日	311 c	1	【横浜の生糸市況】
		3日	311 d	1	【米国での日本茶の声価下落】
		3日	311 e	1	【横浜取引所銀貨売買の景況】
		3日	311 f	1	【古金銀銅貨の退蔵】
		3日	311 g	1	【兵庫近傍の麦作況】
		3日	311 h	1	【天鵞絨並友禅染の好評】
		3日	311 i	1	【清国広東郊外で洪水・続報】
		7日	312 a	1	「生糸の事」
		7日	312 b	1	【支那米売買会所】
		7日	312 c	2	【石炭油の限月売買】
		10日	313 a	1	「生糸の事」（続き）
		10日	313 b	1	【下総本利根近辺の米作】

第1表　『中外物価新報』の論説・雑報等標題一覧　（その14）

年	月	日	号数	面	記事の標題
1880年	7月	10日	313 c	1	【横浜の生糸市況】
		10日	313 d	1	【横浜への入港船】
		10日	313 e	1	【明治11年全国諸麦収穫表】
		14日	314 a	1	【府下6月の米況】
		14日	314 b	1	【横浜洋銀の相場】
		14日	314 c	1	【深川在米の探訪】
		14日	314 d	1	【南京米限月売買所並に石油相場会所の停止】
		14日	314 e	1	【両米会所未だ解停せず】
		14日	314 f	1	【開進会社の近況】
		14日	314 g	1	【横浜への入港船】
		17日	315 a	1	「輸入品勘定書」
		17日	315 b	1	【米国ので日本茶の景況】
		17日	315 c	1	【沃度加里の相場下落】
		17日	315 d	1	【諸会社銀行実際報告】
		21日	316 a	1	「日本生糸商業の衰運」
		21日	316 b	1	【新米前品かすりの懸念】
		21日	316 c	1	【信州の景況】
		21日	316 d	2	【福島県下須賀川で繭市場開設】
		21日	316 e	2	【足利市場の取引】
		24日	317 a	1	【東京商法会議所府下商況報告 6月分】
		24日	317 b	1	【唐糸直輸入の企て】
		24日	317 c	1	【上州前橋糸市の景況】
		24日	317 d	1	【打狗（タカオ）砂糖の景況】
		24日	317 e	1	【清国天津の諸市況】
		24日	317 f	1	【6月中各港輸出入表】
		24日	317 g	1	【諸会社銀行実際報告】（続き）
		24日	317 h	2	【東京商人録の発刊】
		24日	317 i	2	【米需給の見通し】
		28日	318 a	1	【各地稲作進捗状況】
		28日	318 b	1	【府下の金融】
		28日	318 c	1	【1月～6月各港輸出入額】
		28日	318 d	1	【東京商法会議所府下商況報告 6月分】（続き）
		28日	318 e	1	【米国穀類等の輸出】
		28日	318 f	1	【上州前橋糸市の景況】
		28日	318 g	1	【横浜への入港船】
		28日	318 h	1	【諸会社銀行実際報告】（続き）
		31日	319 a	1	「輸入品勘定書」（315号の続き）

第1表　『中外物価新報』の論説・雑報等標題一覧　（その15）

年	月	日	号数	面	記事の標題
1880年	7月	31日	319 b	1	【米商会所解停の目途たたず】
		31日	319 c	1	【上海日本人商同会商品陳列所開設】
		31日	319 d	1	【藍作の景況】
		31日	319 e	1	【南京米に買人気】
		31日	319 f	1	【米価下落の目途付かず】
		31日	319 g	1	【米穀三業会社出願の御払米割渡し実施】
		31日	319 h	1	【横浜への入港船】
		31日	319 i	1	【備中笠岡私立明十銀行第1回実際報告】
	8月	4日	320 a	1	【米国農業より学ぶべきこと】
		4日	320 b	1	【関東稲作は順調】
		4日	320 c	1	【秋田織物会社の設立】
		4日	320 d	1	【米商会所解停の目途たたず】
		4日	320 e	1	【オシャニック号の積荷】
		4日	320 f	1	【横浜港の入出港船】
		7日	321 a	1	【東京商法会議所臨時会開催】
		7日	321 b	1	【新米走り到着】
		7日	321 c	1	【府下7月の米況】
		7日	321 d	1	【信州の景況】
		7日	321 e	1	【石巻の景況】
		7日	321 f	1	【福島の景況】
		7日	321 g	1	【フロリダ半島地峡開鑿の企画】
		7日	321 h	2	【欧州への生糸積出し】
		7日	321 i	2	【横浜への入港船】
		11日	322 a	1	「十一年農産表抄録」
		11日	322 b	1	【米商才取の利潤】
		11日	322 c	1	【大坂の米況】
		11日	322 d	1	【上州前橋糸市の景況】
		11日	322 e	1	【朝鮮釜山浦よりの通信】
		11日	322 f	1	【米国の牡蠣輸出】
		11日	322 g	1	【兵庫港上半季の輸出入】
		11日	322 h	1	【諸会社銀行実際報告】（続き）
		14日	323 a	1	「十一年農産表抄録」（続き）
		14日	323 b	1	【米商会所解停問題】
		14日	323 c	1	【里昂通信・養蚕の景況】
		14日	323 d	1	【紐育電報・茶生糸市況】
		14日	323 e	1	【上州前橋糸市の景況】
		14日	323 f	1	【諸会社銀行実際報告】（続き）

第1表　『中外物価新報』の論説・雑報等標題一覧　（その16）

年	月	日	号数	面	記事の標題
1880年	8月	14日	323 g	2	【香港上海銀行上半季実際報告】
		14日	323 h	2	【日支生糸の価格推移】
		14日	323 i	2	【英国「メルカンタイル・バンク」横浜支店の再開】
		14日	323 j	2	【和泉国本年の田作】
		14日	323 k	4	「上海商同会御国産見本陳列所開場広告」
		18日	324 a	1	【東京商法会議所府下商況報告 7月分】
		18日	324 b	1	【各地米商会所役員の上京】
		18日	324 c	1	【上州前橋糸市の景況】
		18日	324 d	1	【岩代庭坂生糸市の景況】
		18日	324 e	1	【大坂通信・ 茶米の市況】
		18日	324 f	1	【諸会社銀行実際報告】（続き）
		18日	324 g	4	「上海商同会御国産見本陳列所開場広告」
		21日	325 a	1	【東京商法会議所府下商況報告 7月分】（続き）
		21日	325 b	1	【明治12年度各港輸出入表】
		21日	325 c	1	【信州長野銀行第1回実際報告】
		21日	325 d	1	【米国欧州へ積出しの茶生糸】
		21日	325 e	1	【英国本年6月の輸出入】
		21日	325 f	1	【合衆国商業の繁盛】
		21日	325 g	1	【諸会社銀行実際報告】（続き）
		21日	325 h	2	【日耳曼（ゲルマン）の糖業】
		25日	326 a	1	【巴里・倫敦の生糸市況】
		25日	326 b	1	【東京商法会議所府下商況報告 7月分】（続き）
		25日	326 c	1	【里昂よりの通信】
		25日	326 d	1	【新聞原稿遞送に関する注意】
		25日	326 e	1	【越後見附町通信】
		25日	326 f	1	【伊勢地方の藍作】
		25日	326 g	1	【上州前橋糸市の景況】
		25日	326 h	1	【諸会社銀行実際報告】（続き）
		25日	326 i	2	【兵庫港現在米高】
		25日	326 j	2	【米国諸州綿作の景況】
		25日	326 k	2	【英国より輸入の金物類】
		28日	327 a	1	【日本茶の荷造り・色合】
		28日	327 b	1	【東京商法会議所府下商況報告 7月分】（続き）
		28日	327 c	1	【米商会所定期売買10月1日より解停】
		28日	327 d	1	【新米相場雑報】
		28日	327 e	1	【25日の嵐】
		28日	327 f	1	【東京株式取引所の役員改選】

第1表　『中外物価新報』の論説・雑報等標題一覧　（その17）

年	月	日	号数	面	記事の標題
1880年	8月	28日	327 g	2	【上州前橋糸市の景況】
		28日	327 h	2	【勢州松坂通信】
	9月	1日	328 a	1	【各地の二百十日】
		1日	328 b	1	【兜町米商会所臨時株主集会】
		1日	328 c	1	【各地米商会所の動静】
		1日	328 d	1	【府下金融の必迫】
		1日	328 e	1	【朝鮮釜山通信】
		1日	328 f	1	【諸会社銀行実際報告】（続き）
		4日	329 a	1	「商業の変遷」
		4日	329 b	1	【秋収の見通し】
		4日	329 c	1	【風帆船会社の創立準備】
		4日	329 d	1	【上州前橋糸市の景況】
		4日	329 e	1	【羽後湯沢よりの通信】
		4日	329 f	2	【横浜港の入出港船】
		8日	330 a	1	「商業の変遷」（続き）
		8日	330 b	1	【株式取引所仲買へ臨時検査】
		8日	330 c	1	【豆州よりの通信】
		8日	330 d	1	【和製鉄釘類の呼称量目改正】
		8日	330 e	1	【信州長野の商況】
		11日	331 a	1	【各地の二百二十日】
		11日	331 b	1	【岩代掛田の近況】
		11日	331 c	1	【上州前橋糸市の景況】
		11日	331 d	1	【イタリアよりの通信】
		11日	331 e	1	【府下8月の米況】
		11日	331 f	1	【諸会社銀行実際報告】（続き）
		11日	331 g	2	【株式取引所仲買へ臨時検査・続報】
		15日	332 a	1	【新井白石の貨幣改鋳論】
		15日	332 b	1	【府下の金融】
		15日	332 c	1	【株式取引所仲買を除名】
		15日	332 d	1	【大坂北在の稲作模様】
		15日	332 e	1	【羽前米沢の通信】
		15日	332 f	1	【朝鮮釜山浦よりの通信】
		18日	333 a	1	【新井白石の貨幣改鋳論】（続き）
		18日	333 b	1	【横浜の市況】
		18日	333 c	1	【7月中各港輸出入表】
		18日	333 d	1	【清国綿の作柄】
		18日	333 e	1	【横浜への入港船】

第1表　『中外物価新報』の論説・雑報等標題一覧　（その18）

年	月	日	号数	面	記事の標題
1880年	9月	18日	333 f	1	【上州前橋糸市の景況】
		22日	334 a	1	「銀貨騰貴」
		22日	334 b	1	【銀貨取引休止】
		22日	334 c	1	【上海廈門間電信復旧】
		22日	334 d	1	【兵庫港の在米・輸出入米】
		22日	334 e	1	【石炭輸出並に消費の増進】
		22日	334 f	1	【打狗（タカオ）港の景況】
		25日	335 a	1	【兜町米商会所限月米受渡格付の改正】
		25日	335 b	1	【東京商法会議所府下商況報告 8月分】
		25日	335 c	1	【東京米商会所立会相場の見込】
		25日	335 d	1	【横浜への入港船】
		25日	335 e	1	【上州前橋糸市の景況】
		25日	335 f	1	【岩代若松の黒葡萄】
		25日	335 g	1	【里昂よりの通信】
		29日	336 a	1	「千八百七十九年貿易の要領」
		29日	336 b	1	【東京商法会議所府下商況報告 8月分】（続き）
		29日	336 c	1	【上州前橋糸市の景況】
		29日	336 d	1	【兜町米商会所現米直取引の手順】
	10月	2日	337 a	1	【東京米商会所の改正格付】
		2日	337 b	1	【現米蔵預証の証拠金代用】
		6日	338 a	1	「東京商法学校」
		6日	338 b	1	【上州前橋糸市の景況】
		9日	339 a	1	「千八百七十九年貿易の要領」（続き）
		9日	339 b	1	【米格付問題・続報】
		9日	339 c	1	【両米商会所の不盛況】
		9日	339 d	1	【米の作柄】
		9日	339 e	1	【上州前橋糸市の景況】
		13日	340 a	1	【府下9月の米況】
		13日	340 b	1	【制虫袋】
		13日	340 c	1	【紙の入荷高】
		13日	340 d	1	【紐育生糸相場】
		13日	340 e	1	【上州前橋糸市の景況】
		13日	340 f	1	【浜町に新設の魚鳥市場】
		16日	341 a	1	【農家富裕と貿易の権衡】
		16日	341 b	1	【米国大頭領選挙】
		16日	341 c	1	【石炭油相場】
		16日	341 d	1	【暴風雨の被害軽微】

第1表　『中外物価新報』の論説・雑報等標題一覧　（その19）

年	月	日	号数	面	記事の標題
1880年	10月	16日	341 e	1	【米商会所の合併】
		20日	342 a	1	【東京米商会所代米格付表再改訂】
		20日	342 b	1	【大坂の米況】
		20日	342 c	1	【横浜銀貨相場の騰貴】
		20日	342 d	1	【石油相場益々強気】
		20日	342 e	1	【石炭相場上景気】
		20日	342 f	1	【正金銀行が海外直輸出に荷為替】
		20日	342 g	1	【蚕種の市況】
		20日	342 h	1	【米商会所の合併・訂正】
		20日	342 i	1	【北海道へ米の積出し】
		20日	342 j	1	【上州前橋糸市の景況】
		20日	342 k	1	【英国本年1月から7月の輸出入】
		20日	342 l	1	【合衆国貨幣鋳造額】
		20日	342 m	1	【里昂よりの通信】
		23日	343 a	1	【銀貨騰貴を論ず】
		23日	343 b	1	【東京商法会議所府下商況報告 9月分】
		23日	343 c	1	【米国造幣局報告書】
		23日	343 d	1	【米国の紙幣流通高】
		23日	343 e	2	【廈門甘蔗に暴風害】
		27日	344 a	1	「海外荷為替」
		27日	344 b	1	【東京米商会所代米格付表再改訂・続報】
		27日	344 c	1	【肥料の市況】
		27日	344 d	1	【政府は建物製造所等を払下る方針】
		27日	344 e	1	【釜石鉄山の開業】
		27日	344 f	1	【風帆船会社開業】
		27日	344 g	1	【里昂よりの通信】
		27日	344 h	1	【上州前橋糸市の景況】
		30日	345 a	1	「海外荷為替」（続き）
		30日	345 b	1	【9月中各港輸出入表】
		30日	345 c	1	【東京商法会議所府下商況報告 9月分】（続き）
		30日	345 d	1	【上州前橋糸市の景況】
		30日	345 e	1	【朝鮮釜山浦よりの通信】
	11月	6日	346 a	1	【歳計節減の儀布告】
		6日	346 b	1	【合衆国への日本茶の輸入】
		6日	346 c	1	【1月～6月各港輸出入額】
		6日	346 d	1	【人命請負会社近日開業の見込み】
		6日	346 e	1	【北越よりの来状】

第1表　『中外物価新報』の論説・雑報等標題一覧　（その20）

年	月	日	号数	面	記事の標題
1880年	11月	6日	346 f	1	【米商会所仲買人の景況】
		6日	346 g	1	【米商会所より規則改正の出願】
		10日	347 a	1	「海外荷為替」（続き）
		10日	347 b	1	【倫敦市場の前橋提糸二番半相場】
		10日	347 c	1	【紐育より電報】
		10日	347 d	1	【上州前橋糸市の景況】
		10日	347 e	1	【英国の稲麦作況】
		10日	347 f	1	【横浜の商況】
		13日	348 a	1	【日東保生会社】
		13日	348 b	1	【府下10月の米況】
		13日	348 c	1	【上州前橋糸市の景況】
		13日	348 d	1	【横浜港の入出港船】
		13日	348 e	1	【南京米の競売】
		17日	349 a	1	【日東保生会社】（続き）
		17日	349 b	1	【石炭の市況】
		17日	349 c	1	【横浜銀貨相場中止】
		17日	349 d	1	【横浜生糸の商況】
		17日	349 e	2	【台湾の砂糖不作】
		17日	349 f	2	【岩代若松よりの通信】
		20日	350 a	1	【物品貿易の差額外に於て我が金銀の海外へ流出するもの】
		20日	350 b	1	【横浜バピエ商会の生糸買入れ】
		20日	350 c	1	【横浜外商の生糸買入れ】
		20日	350 d	1	【東京の金融】
		20日	350 e	1	【上州前橋糸市の景況】
		24日	351 a	1	【物品貿易の差額外に於て我が金銀の海外へ流出するもの】（続き）
		24日	351 b	1	【上州前橋糸市の景況】
		24日	351 c	1	【朝鮮釜山浦よりの通信】
		24日	351 d	1	【1880年イタリア養蚕の結果報告】
		27日	352 a	1	【1880年イタリア養蚕の結果報告】（続き）
		27日	352 b	1	【横浜銀貨相場の乱高下】
		27日	352 c	1	【横浜蚕卵紙の景況】
		27日	352 d	1	【各地米商会所出京委員の集会】
		27日	352 e	1	【各地米取引の事情】
		27日	352 f	1	【越中伏木港よりの通信】
		27日	352 g	1	【横浜の商況】

第1表　『中外物価新報』の論説・雑報等標題一覧　（その21）

年	月	日	号数	面	記事の標題
1880年	12月	1日	353 a	1	【東京商法会議所府下商況報告 10月分】
		1日	353 b	1	【両米会所11月限取渡の景況】
		1日	353 c	1	【東京米価の上昇により入荷促進の見込み】
		1日	353 d	1	【松戸在老農の談話】
		1日	353 e	1	【上州前橋糸市の景況】
		4日	354 a	1	「支那貿易盛にす可し」
		4日	354 b	1	【風帆船会社神倉丸函館より帰港】
		4日	354 c	1	【島村組蚕種直輸出の試み】
		4日	354 d	1	【深川諸倉の在米高】
		4日	354 e	1	【信州上田よりの通信】
		4日	354 f	1	【上州前橋糸市の景況】
		8日	355 a	1	「支那内地釐金税の事」
		8日	355 b	1	「仏国製糸所工女の徒党」
		8日	355 c	1	【横浜の商況】
		8日	355 d	2	【上州前橋糸市の景況】
		11日	356 a	1	【船舶の火災】
		11日	356 b	1	【米商会所へ先物三ヶ月期の売買許可】
		11日	356 c	1	【府下並に「田舎廻り」の金融】
		11日	356 d	1	【糯米の市況】
		11日	356 e	1	【蚕種紙の輸出高】
		11日	356 f	1	【大坂で紙幣払底】
		11日	356 g	2	「仏国製糸所工女の徒党」（続き）
		11日	356 h	2	【紐育よりの通信】
		11日	356 i	2	【米国の石油輸出高】
		11日	356 j	2	【米国の懐中時計製造個数】
		11日	356 k	3	【横浜大火】
		15日	357 a	1	【樟脳の取引事情と商況】
		15日	357 b	1	【金融の必迫】
		15日	357 c	1	【横浜外国商人の元方買付】
		15日	357 d	1	【横浜の商況】
		15日	357 e	1	【昆布の不作】
		15日	357 f	1	【上州前橋糸市の景況】
		15日	357 g	1	【豊国丸の火災】
		15日	357 h	1	【府下11月の米況】
		18日	358 a	1	「琉球の物産を振起すべし」
		18日	358 b	1	【上州前橋糸市の景況】
		18日	358 c	1	【米国市場で日本茶余剰の見込み】

第1表　『中外物価新報』の論説・雑報等標題一覧　（その22）

年	月	日	号数	面	記事の標題
1880年	12月	18日	358 d	1	【カルカッタ茶の市況】
		18日	358 e	1	【仏国の輸出入高】
		18日	358 f	1	【兵庫米商会所十石建格付】
		22日	359 a	1	【巴里よりの通信】
		22日	359 b	1	【里昂よりの通信】
		22日	359 c	1	【里昂の絹物売買額】
		22日	359 d	1	【米穀貯蔵法】
		22日	359 e	1	【上州前橋糸市の景況】
		22日	359 f	1	【ロシアの不換紙幣整理】
		25日	360 a	1	「堂島の詞訟」
		25日	360 b	1	【東京商法会議所臨時会議開催】
		25日	360 c	1	【商務局長河瀬秀治君帰京】
		25日	360 d	1	【加州小松よりの通信】
		28日	361 a	1	【府下の金融必迫】
		28日	361 b	1	【横浜の金融必迫】
		28日	361 c	1	【横浜の火災】
		28日	361 d	1	【明治十三年東京雑貨市況の回顧】
		28日	361 e	2	【神戸の金融必迫】

注）1．本表は、定型定例化された相場速報・市況概況以外のすべての記事の標題一覧である。
2．記事に標題がある場合には、原則としてそのまま採用し「　　」でくくった。ない場合には作成者が標題をつけ【　　】でくくった。
3．号数欄のアルファベットは、同一号に複数の対象記事がある場合に、区別のために作成者が付したものである。

第2表　記事の内容　　（その1）

号数	内　　容
159 a	【明治11年中の商況】（続き）　巴里博覧会への参加について詳述。
159 b	「〔倫敦〕生糸景況アールス、ジウホール社中ノ報告抄訳」　倫敦生糸市場の不景気の原因と今後の見通し。
160 b	【米国生糸現況】　紐育在留社友よりの通信（昨年12月9日出）抄録。
162 b	【グラスゴー及びスコットランド西部に於ける破産】　ジャパンヘラルド抄訳
163 a	【東京商法会議所定式会傍聴筆記】　1月20日開催。
163 b	「1878年上半年度伊太利貿易ノ景況」　「仏国理財新報抄訳」
164	「聞保険会社設立」　海上受合を行う保険会社設立の出願があり、当局においても其願旨を許容し条例を調査中であること。保険会社起業者に対して、保険料を妥当に設定すべきこと、規則を簡素に定め災害が生じた際には速やかに弁償をなすべきことを要望。商人に対しては、保険の利用により資本に比して大規模な取引が可能となること、従来の陋習にとらわれず保険料を費用に組み込んで確実な商売を行うべきことを説く。銀行者に対しては、保険によって《安全に物産の資本を流通し得る》ようになるのであるから、荷為換及割引手形等を主業とすべきことを説き、同時に保険会社が設立されたならば（国立銀行）条例を改正して荷為換抵当の物品には保険を付すことを義務づけるべきであると主張。
165	【我国生糸の欧州製糸を圧倒し得べきの時なり】　伊太利未蘭からの通信（去年11月9日出）中より欧州生糸景況を抄録。それに続けて、欧州での生糸価格下落により、欧州製糸家の採算が厳しくなるであろうこと、他方日本からの輸出に際しては対金貨洋銀安・対洋銀内地通貨安という為替相場が作用するので、日本の製糸家の採算には余裕があることを指摘。この機会を逃さず、蚕種の輸出はなるべく廃し、製糸の質を一層改良することにより《十分彼の信憑を博取し遂に彼の養蚕を退縮し我が製糸をして欧州市場に横行せしめんことを企図せよ》と主張。
166	「横浜外国商法会議所定式会の略況」　1月31日に開催された横浜外国商法会議所の定式会議初会の議事概要。傍聴を願い出て許可された東京商法会議所会員による記録。
167 a	【東京商法会議所定式会傍聴記】　2月3日開催。紐育より帰朝した高木領事が招待され、該地商況の演説を行う。その概略。
167 c	「日本小麦」　倫敦グローザ新聞抄訳。フランス・パリの「アックリメーション、ソサイテー」による日本小麦種子の試験播布について。

第2表　記事の内容　　（その2）

号数	内　　容
168	「洋銀相場の騰貴を救済するの論」　最近の洋銀相場高騰の根本原因は輸出入の不均衡であり、その解決には内地の物産を興隆し、必需品輸入の代価を償うべき輸出物品を産出することしかない。各産業について輸出物品としての得失を次回以降検討して行く。
169	「仏蘭西大博覧会の概況」　昨年パリで開催された大博覧会における日本の成績を報告。今回の最大の成果は、日本からの輸出品の需要者の好悪を現地で直接に知る機会を得たことにあると指摘。起立工商会社、三井物産会社のパリ支店設置にも言及。
170 a	【内地物産の興隆】　「洋銀相場の騰貴を救済するの論」（168号）を受けて、輸出物品産出にあたっての各産業の得失を検討。それに先立ち我が国民業の変動を略述し、従来経験に欠ける合資協力が緊要であることを指摘。各産業の第一として農業（未開拓地の開拓）を検討。（未完）
170 b	【上海に於ける木綿製造所設立計画】　香港新聞（２月1日付）抄訳。上海の近傍での木綿製造所設立計画を紹介し、その見通しを論評。
170 c	「在清国厦門某報告書々抜」　中国茶商が結束して外商に対抗していることを紹介して賞賛。
171 a	【内地物産の興隆】（続き）　北海道開拓の方策を提言。民間資金を株式会社組織で募り開拓会社を設立すること、開拓には志操堅固な士族を糾合して当たらせることが最適であること、開拓者の意欲を引き出すためには開拓地が自己の所有となる制度が必要であること等を提言。開拓成功例として、有珠村への仙台藩支藩の入植を紹介。（未完）
171 b	「里昂府糸商よりの通信」　12月28日発。
172	「横浜洋銀取引所の創立」　横浜洋銀取引所が近日中に開業の見通しであることを報じ、その取引規則の概要を紹介。取引所設立の意義として、①冒険者による空相場の勢力が殺滅されるであろうこと、②一定範囲内での貿易銀・一円銀の使用が認められたことにより洋銀の需給変動とそれに乗じた空相場の鎮圧に効果があるであろうこと、③先物取引の利用により商品売買時点で商売の計算がたてられるようになること、を指摘。末尾で横浜毎日新聞記事での洋銀取引所創立発起人等への批判に反論。〔なお、横浜洋銀取引所の相場は3月12日付第177号より「横浜商況」欄に掲載が始まる。〕
173 a	【内地物産の興隆】（続き）　牧畜について。我が国では農業に於ける畜力の利用が不十分でありその奨励が望まれる。また牛については近年肉食が広まってきておりこのままでは将来外国からの輸入が必要となることも危惧される。（未完）

第2表　記事の内容　　（その3）

号数	内　　容
173 b	【貸借に関する法律の不備】　ジャパン、メール新聞（2月15日）抄訳。貸借に関する法律の不備に関し、ジャーディン・マディソン商会が横浜商法会議所におこなった建言を紹介。
174 a	【東京商法会議所臨時会議 商標条例下問回陳書】　2月27日開催の東京商法会議所臨時会議の議事を紹介。同会議で可決された商標条例に関する政府下問への回陳書全文を掲載。その上で、予想される批判、すなわち開陳書において《従来慣用の目標即ち符号を以て商標の効を為し来りたる因習を勘酌し認許不認許等の別なく広く保護を与ふべし》としたのは不完全であるとする批判を論駁する。
174 b	【マルセイユ港における生糸繭玉商売の慣例】　仏国新誌摘訳
175 a	【内地物産の興隆】（続き）　砂糖について。（未完）
176 a	【政府は商政の途を改め干渉保護の主義を廃止すべし】　政府による事業経営は民業育成の妨げとなることを説き、《政府の自任する諸製造所工業等の苟も損益を計るものは挙げて之を人民に分担せしむるを第一着とし干渉保護主義廃止の政略を明かに衆庶に明示あらんことを》切望。政府は現在経営する事業を人民に売り渡し、その代価をもって《政府の当に任ずべき海陸運輸の便を開らき郵便電信の線路を普及しもしくは増発の紙幣を買上げて国債を償却すべし》。東京経済雑誌（第2号）の主張に触発された論説。
176 b	【里昂よりの通信】　1月11日出。生糸・絹布市場の動向。英国工業の不況。
177 a	【輸入品供給地の景況及び相場出帆船積荷等に十分な注意を払うべきこと】　横浜における輸入品取引に際し、商品供給地における産出高・価格などの動向を知らぬために、外国人商人が提示する一見廉価に見える価格で先物約定を結び、結果的に損失を被る日本人商人が多々見受けられる。本紙としては、こうした失敗を防ぐために、たとえ贅物視する向きがあろうとも《輸入物品供給地の景況及び相場出帆船積荷等を詳細に謄録》することに勉めて行きたい。
177 b	【紐育よりの通信】　2月9日出。紐育における生糸の景況。
178	【商売仲間組合を立て規約を設るの得失】　維新によって廃止された問屋名義を再興し仲間規約を定めようとする動きが見られるが、そうした束縛の法を設けることは商人の進取発達の精神を萎縮せしめ、勉強労苦への意欲を削ぐことになり、商業の拡張につながらないと警鐘を鳴らす。（未完）
179	「海外直輸出の利益」　我が国商人は、輸出品の需要先であり輸入品の生産地である外国の事情を知らないために、その取引において外国人商人に制圧されてきていた。最近になってようやく海外との直接の商売を試みる商人が現れ、その成果として開港場在留の外商との取引でも従来よりは対等に近い関係

第2表　記事の内容　　（その4）

号数	内　　容
	がもてるようになってきた。また、海外在留の日本人商人からもたらされる情報によって輸出品を海外市場の嗜好に応じて改良することもできるようになってきた。さらに、海外直輸出を試みる商人には、将来を展望してできる限り良好の品を送り声価を得ようとする傾向が見られることも大いな利益である。
180	【木綿糸輸入の急増と国内紡績業の企画】　我が国では人民の手元に余裕が生ずるとともに輸入木綿糸への需要が急増し、巨額の輸入代金が外国へ支払われている。世界各国は自国に綿糸産業を興そうとして保護税などの措置を講じているが、英国の優位は揺らいでいない。日本においては、東京王子・泉州堺・薩州鹿児島などで器械場が設立され、大坂・広島・名古屋・東京等においても続々と起工の企てがあると聞く。国産の綿は一番糸（細糸）には向かないが、輸入の大半は二番糸・三番糸であり、これらの器械場で国産綿を使った木綿糸生産が振起すれば需要増に伴う輸入増の幾分かを防ぐことができるであろう。
181	【商売仲間組合を立て規約を設るの得失】（続き）　同業仲間組合を設立せしめんことを府庁より布達あるようにとの建白を東京商法会議所が可決したことを批判。
182	【米国綿業の興隆と英国綿貿易の衰退】　他国（就中米国）における木綿製造の興隆により英国木綿貿易が衰退を余儀なくされているとの「倫敦タイムス」紙の記事を紹介（「ジャパンメール」新聞掲載論文「英国木綿貿易」からの再引用）。その上で、米英両国を比較して興隆・衰退の要因を分析。
183	【米の栽培】　「ジャパンメール」掲載記事の「米の作り方」を抄訳掲載。同記事では、英国公使館員モーンセー氏と日耳曼（ゲルマン）公使館員ケンバーマン氏がそれぞれ行った調査結果とその相異なる結論を紹介しつつ、日本米の将来性を検討。（未完）
184	【米の栽培】（続き）　前号での「ジャパンメール」掲載記事抄訳を踏まえて、米耕作の実態について論評。各国米の成分比較。米収納に遅速がある理由と両毛作の可否について。（未完）
185	【米の栽培】（続き）　米作が利益をもたらすか否かを検討。維新前には幕藩政府からの課税が重く、農民には富裕な者が出来難かったが、維新後の地租改正を経て、明治10年1月の地税軽減とその後の米価高値により農家には稍々余裕が生じてきていると指摘。（未完）
186	「読商務局雑報有感」　『商務局雑報』第23号掲載の論説「同業組合宜属民為説」を紹介。論説の要点は《商估同業組合を立つるは相互の協議に任すべく他の権力を借りるべからず》ということにあるとし、この論説掲載を政府が《干渉主義の非を悟り政略の方向を任他主義に豹変せられし》ことの実証であ

第2表　記事の内容　　（その5）

号数	内　　容
	るとして歓迎する。
187 a	【米の栽培】（続き）　　近年米作は農家に利益をもたらしている。他方畑作は地域によって格差はあるが、概して米作より不利で、労力に比して収益は薄い。
187 b	【紐育よりの通信】　　3月7日出。生糸と茶の景況。
188	【器械綿紡績の損益計算】　　180号論説で予告した器械による木綿糸製造の損益見積を紹介。冒頭で国内産の綿が器械紡績の原料として十分役に立つことを再説。1000スピンドル以下の小器械では採算は厳しいと言われていると述べ、2490スピンドルの器械での損益試算を紹介。
189 a	【洋銀低下の理由】　　報知新聞の記事「洋銀の低下」が、最近の洋銀の低下は貿易不均衡の改善が見られためと報じていることへの批判。実際の商品の動向を見ると貿易不均衡を改善するほどの輸出の増加があるとは認めがたく、最近の洋銀相場低下は《一二商估の所為にして其は我銀貨を抵当として外国バンクより五六十万弗を借り出し之を売り出せし故又他に売人気出て斯く一時の変化を現はせしなり》と分析。
189 b	「台湾赤砂糖輸出調」　　3月8日～二十五日迄。香港4月9日発通信から摘録。〔4面に掲載〕
190	【支那地方への物産陳列縦覧所の設置】　　横浜の商人串田某が神奈川県庁に提出した、「支那」各地に我が国物産陳列縦覧所を設置すべしとの建議を紹介。すでに対中国輸出の増加は、穀類・乾物・薬種・日用雑品などでめざましいものがあり、建議の方策をとれば、数年を出ずして輸出物品の一層の増加につながるであろうと賛意を表す。
191	【本邦米の輸出】　　先に、米の栽培が有利であると議じた（183号～187号）が、その前提となる米価の維持・墜落防止の策として、米の輸出について考察する。日本産米の声価・将来性・市場開拓の方策を論ずるに先立ち、維新以降の米貿易の沿革を略述する。（未完）
192	【本邦米の輸出】（続き）　　前号補足として明治5年、6年の政府による輸出米の詳細データを掲載。日本産米の声価・将来性・市場開拓の方策に論及。輸出市場としては欧州が有望である。近年の実績により欧州市場においてはインド米よりも高値で取引されるようになってきた。したがって通常は商人による輸出を保護しておけば良いが、もし国内に余剰がありかつ欧州相場が不引合の場合には多少の損失を被っても政府自らが輸出を行うことが海外市場での声価維持と国内市場での米価維持のために望まれると提言。
193	【横浜洋銀相場の変動】　　横浜洋銀相場の激しい変動状況を報じ、その原因

第2表　記事の内容　　（その6）

号数	内　　容
	を人為的なものと分析し、洋銀相場の投機的変動が《真正の商売》を衰微させていることを危惧。《近日横浜市場の形状を看よ銀行を始めとし売込問屋引取屋は勿論質屋為換屋唐物屋等に至る迄洋銀相場に関係せざるもの果して幾人かある。独り横浜商人のみならず東京大坂神戸尾勢上野陸羽の農商等迄少しく貿易に関係あるものは或は自ら横浜に滞留し或は電信を借て空相場を為し輸贏を争ふに至れり》と投機横行の状況を報じ、洋銀取引所の設立が予期に反して相場安定に寄与していないことを慨嘆。
194	【1878年理財及商売の沿革結果】　倫敦経済新聞（エコノミスト）掲載の調査報告から抄訳。（未完）
195	【内外生糸市場の景況】　（未完）
197	【上海における銭荘】　清国在留某氏よりの報道を掲載。銭荘の景況・銭荘と商家の関係・銭荘の冷熱・銭荘の優劣・外国銀行と銭荘との関係。（未完）
198	【上海における銭荘】　当座預銀算用・定期預金の利子・利足の高低。
199	「共進会」　5月19日に内務大蔵両卿より生糸・繭・茶の三品の共進会開設の旨とその規則が達せられたことを報じ、共進会の意義を規則に即して解説。その上で、共進会における審査は、いたずらに物品の精美を競うのではなく販路の広狭・嗜好への適否を基準とすべきこと、そうした審査を実現するため審査官には商人を加えるべきこと、外国商人も加えられれば一層望ましいこと等を要望。
200 a	「樺太にて魯人昆布を採取する事」　函館在留某よりの5月19日付郵報。樺太において、昆布漁を始めたロシア人と鮭鱒鯡漁をおこなう日本人漁業者との間で紛擾が生じている。それが長引けば鯡の漁期を失う恐れもある。（未完）
200 b	【欧州為替相場の変動】　欧州為替相場が騰貴。それが一時的なものかどうか注意が必要。
201 a	「樺太にて魯人昆布を採取する事」（続き）　樺太におけるロシア人の昆布漁が盛んになり、あるいは鮭鱒鯡漁へも進出を開始することになれば、日本人漁業者や、日本の海産物市場にも大きな影響を及ぼす可能性がある。
202 a	「条約改正論」　今回の条約改正要求は、収税権など三項にしぼり、裁判権などは先送りとした限定的なものである。安政年間以来の我国制度文物の改良進歩を考えればこうした要求は至正至公なものである。しかるに米国を除く各国は要求受入に否定的なようである。我政府は断固たる態度で改正要求を貫く必要がある。（未完）
203	【香港と日本の関係】　来日中の香港知事ヘンネツシー氏が、来る13日東京商法会議所において演説を行うことになった。その傍聴記を後日掲載したいと

第2表　記事の内容　　(その7)

号数	内　　容
	思うが、それに先立ち香港と日本との関係を紹介する。
204	【香港知事ヘンネツシー氏演説筆記】　13日に東京商法会議所でおこなった演説の傍聴筆記。日清貿易の現状と将来性を展望し、特に北海道産品の対清輸出伸張の可能性を指摘。日本の指導層に奢侈の弊がなく、財政も健全であることを賞賛。
205 a	【香港知事ヘンネツシー氏への答詞】　東京商法会議所第一副会頭・福地源一郎による答詞。日本の理財を安定させ、貿易を隆盛にし、物産の増殖をはかるためには二三の障害物の排除が急務であると述べ、条約改正の必要性をほのめかし、英国の善処を促す。
205 b	【蚕種製造者への警告】　13日の横浜仏字新聞が、養蚕不作に伴う蚕種不足で150万枚程の蚕種紙需要が見通されるとのイタリアからの電信報道を掲載しているが、これは信用しがたいので、蚕種製造業者は過剰生産に走らぬようにと警告。
206	「日支の貿易」　《日本と支那との貿易は日本と欧州との貿易より大切にして将来盛昌に至るべし等の説は實に吾輩の宿論》であると強調。対「支那」輸出品のうち最も重要な物が乾物・乾魚・塩魚等の食料品であり、その最大の産地である北海道における海産業の振興が急務であると指摘。条約改正によって輸出税が撤廃された場合の「支那」との貿易上の便益を推計。
207 a	「香港商業の概況」　香港における商売上の手続きなどを詳細に筆記した香港在住の友人某よりの郵便を謄録。
207 b	【蚕種製造者への警告・再論】　本紙205号報道に対する「横浜ガセット」の反論ないしは弁解を紹介しつつ、蚕種製造業者に重ねて警告。
208 a	【貿易振興上の一大障碍物】　日本の輸入品中で最大の比率を占めるのは木綿類であり、その八九分は英国からの輸入である。世界的にみると英国製木綿類の大需要先であった米国やインドでは国内生産が増大しており、年々需要の増大している日本は英国にとっての《一大顧主》となっている。しかし日本の貿易は巨額の輸入超過であり《輸出入の権衡平を得》ざるため貿易が萎縮しつつある。貿易を盛大にするためには《内地の物産を興立振起》し輸出を増加させることが必要であり、それが引いては輸入の一層の増大にも繋がるのである。しかるに《現行の貿易上には一大障碍物の在るありて殖産の道を阻碍するを以て到底此障碍物を排除せずんば何の時か貿易の盛昌を見るを得んや之れを是察せず眼前の私利に汲々として永遠の公利を謀らざる利己主義者の浅陋なる豈文明国の人民と称すべけんや噫》。
208 b	【支那米の輸入】　近日話題となった横浜への「支那米」輸入の実際。

第2表　記事の内容　　（その8）

号数	内　　容
208 c	【山形県下の景況】　養蚕・生糸・米
209 a	【製糸家に欧州市場動向への注意を喚起す】　横浜商法会議所会頭より東京商法会議所会頭への親書を紹介し、昨年米国市場において太糸が好調であったことから生産者の間で太糸製造に集中する動きもあるようだが、蚕卵紙や茶の二の舞となる危険があると警告し、欧米における生糸市場の需要動向に十分の注意を払うようにと注意を喚起。
209 b	【支那米輸入の事続報】　紫昆（サイゴン）米250万斤輸入
210 a	「香港商業の概況」（続き）　「船積并荷物受取方手続の事」
210 b	「伊太里通信抜抄」　五月十二日発。今年のイタリアにおける養蚕は天候不順のために不作となる可能性が高いと伝える。
211	【利息制限法について】　明治10年9月11日第66号布告による利息制限法の効果について、東京商法会議所による府下各商人間金銭貸借金利の調査を参照しつつ論評。《金利の高低あるは一は供給と需求の繁閑に関し一は抵当と信憑の厚薄に依りて自ら増減の活勢を生ずべきものにして法制を以て之を遏止均一し難き》ものであると結論。
212 a	【条約改正に関する横浜外国商業会議所意見／一円銀貨を貿易貨幣たらしむべきこと】　条約改正問題関する英国公使からの諮詢に対する横浜外国商法会議所の回答意見がまとまった。それは大変精細なもので大いに感服したが、《己を利せんと欲するため斯く迄に手前勝手を駢列し恬然たるは吾輩の如何にも感服し能はざる所》であると論評。内容については翻訳を逐号掲載して行くと予告し、そのうち一円銀貨をして我が国内外貿易の貨幣たらしむべしとの建白については、吾輩のかねてからの主張であり大いに賛成であるとしたうえで、その意義と実現可能性について詳論。（未完）
212 b	「陸奥鰺ヶ沢商売の景況」　《在鰺ヶ沢友人よりの寄送にして該地鯡売買其他の形状を詳かに記しあれば》云々。（以下次号）
213 b	「陸奥鰺ヶ沢商売の景況」（続き）　（以下次号）
214 a	【条約改正に関する横浜外国商業会議所意見】（続き）　212号で予告した、条約改正問題関する英国公使からの諮詢に対する横浜外国商法会議所の回答意見の翻訳紹介。冒頭で再度《彼輩眼前の私利に眩惑し真理を忘却せしものにして（中略）彼輩の鉄面なる恬然愧る色なく斯くまで利己の偏論を公けに向かって説出し得るは實に驚くに絶えたり》云々との前文つき。（未完）
214 b	【倫敦通信】　5月30日発。生糸・樟脳・棹銀・為替の相場。
214 c	【羽前置賜郡通信】　7月10日発。天候・米・蚕種紙。

第2表　記事の内容　　（その9）

号数	内　　容
215 a	【条約改正に関する横浜外国商業会議所意見】（続き）　　（未完）
215 b	「六月六日出巴里通信抜粋」　欧州の養蚕不作。
215 c	「陸奥鯵ヶ沢商売の景況」（続き）　　（以下次号）
216 a	【条約改正に関する横浜外国商業会議所意見】（続き）　横浜商法会議所意見書への全面的反論を展開。《税権は其国政府の専掌独裁すべきは万国普通の正理にして外国人の毫も容吻し得べきものにあらざるなり》と原則を確認したうえで、輸入税を課し輸出税を撤廃しようとする日本政府の方針は、物産の増殖を図り貿易の振興につなげようとするものであり、欧州各国においても普通の政策であると主張。（未完）
217 a	【条約改正に関する横浜外国商業会議所意見】（続き）　横浜商法会議所意見書への反論の続き。日本政府の経済学への理解が浅いとする点、政府官吏が自ら商売に携わっているという点について反論。意見書が提起した「戻し税」（再輸出品に対する輸入税の返還）創設については賛同。
217 b	【海上保険会社設立】　8月1日より日本橋区南茅場町にて開業。資本金60万円の有限責任。
218 a	【条約改正に関する横浜外国商業会議所意見】（続き）　外国船による日本各開港場間貨物運輸禁止の解除要求への反論。
218 b	【米価騰貴の原因】　米価騰貴をめぐって《或は支那に事あらん》などと唱えるものがあるが、そのような形跡はなく現物の不足によるものである。
218 c	【米国における鉱蝋油の発見】　「横浜ヘラルド新聞」抄訳
219 a	「海上保険会社の開設」　8月1日に開業した東京海上保険会社の《保険取扱の大要を報道し再び保険の忽かせにすべからざるを縷陳して未だ保険の何ものたるを知らざる商賈に示》す。（次号へ続く）
219 b	【新潟で米騒動か】　《昨五日夜到達せし新潟の電報に曰く爰許騒動にて富家五軒を毀てり」又続て騒動にて出火米相場二三日休み」と察するに米価非常に沸騰せしより漁夫其他小民輩の騒立ちしものならんか》
219 c	【清国1878年外国貿易の計算】　「東京タイムス新聞」抄訳
221	【西洋形商船船長運転手機関手試験規則について】　西洋形商船船長運転手機関手試験規則の施行（今月16日を予定）は時期尚早であるとし、その延期もしくは小船への適用除外措置を求める論説。
224	【六月中各港輸出入一覧表】　本年6月各港輸出入表に関する東京「タイムス」新聞の論評を抄訳して紹介。なお同紙が6月における輸出超過をとらえて貿易基調の変化が起きたとしている点には疑問を呈している。

第2表　記事の内容　　（その10）

号数	内　　容
225	「米作の概況」　大坂をはじめとして各地で現米の品薄・価格の騰貴が続いている。本年の米作柄は各地からの通信によるとこれまでのところ順調である。今後、風災と俄かな冷気におそわれないことを祈るのみである。なお、倫敦からの通信によれば日本米の価格がラングーン米に比して騰貴している。これは食用米に消費する道が開けたものである。もし本年が豊作で国内に余剰米が生ずるようであれば輸出を行って輸出入均衡の一助としたい。
226	【物産売買の戦争】　《物産売買の戦争》は《干戈攻伐の戦》より《一層重大にして秒時も離るべからざる》ものであり、それに敗れれば《附庸属隷》《滅亡廃頽》に陥りかねないとの主張を、諸外国間の競争とその勝敗の例を挙げて詳論。
227	【物産売買の戦争】（続き）　日本では、長年にわたり利を卑しむ教育がなされてきた結果《利を計るの脳力は甚だ乏しく（中略）開戦以来二十余年の今日に至り殆ど全敗の姿を顕はし》ている。条約改正がなれば直ちに貿易の均衡が維持されるかの妄想を持つ人もいるが、《人々実業に勉強し節倹を旨として物産を下廉に製造し専ら外国に売勝つことを勉めざれば決して全体の勝利は得ら》れない。明治元年以来の貿易の伸長を見れば、我が国が物産売買の戦争に決して打ち勝てないとは思わないが、人々の風潮が虚飾奢侈に流れがちであり、続々と創立され盛昌に見える諸会社のうちにも《真に物産の興起を謀り遠大の基礎を備へしもの》は僅かにすぎないという現状では、物産売買の戦争にはとても打ち勝てない。
228 a	【勧農局明治十年全国農産表】　先に勧農局が公表した第2回明治10年全国農産表より主要品目についてその要点を紹介。
228 b	【ニューメキシコでの銀鉱発見】　「倫敦商業日誌」の記事を紹介。
228 c	【麻苧に生糸の外見性質などを付する方法の発明】　「ヂャッパン・デーリー・メイル」新聞抄訳。パリの化学者の発明。
229 a	【勧農局明治十年全国農産表】（続き）　末尾で、綿・砂糖の二項目についての論評し、社会の改進に伴い急増する消費需要に物産工業の進展が匹敵していないことを改めて指摘。
229 b	【日本銀貨の香港内通用】　《香港太守ヘ其本国政府ヨリ爾来日本銀貨ヲ本位貨幣トナシ亜米利加及墨西哥香港弗ト同様港内一般通用為致不苦旨諭達アリタリト横浜「ヘラルド」新聞ニ見ヘタリ》
229 c	【一円銀貨の貿易貨幣化】　一円銀貨を洋銀に代用して貿易貨幣とすることについて、頻繁に外国バンクとの間で打合が行われており、実現の見込みである。

第2表　記事の内容　　（その11）

号数	内　　容
230 a	【欧州の生糸市況】　伊仏両国における養蚕不作凶荒にもかかわらず生糸相場が下落している理由の如何。
230 b	【一円銀貨通用の布告】　9月12日付布告第35号。一円銀による洋銀代用の布告。
230 c	【英国凶作の見込み】　「ヘラルド」新聞掲載の倫敦電報を転載
230 d	【各地二百十日の天候】　電信での問い合わせ結果。
230 e	【三井蔵入札売の景況】　深川三井蔵での米入札売り。
231 a	【明治11年度各港輸出入年度表】　大蔵省関税局編纂の11年度（明治11年7月1日～12年6月30日）の各港輸出入年度表の要点を紹介。
231 b	「洋銀の景況」　貿易銀の洋銀代用通用を見越した思惑取引による相場の模様を紹介。〔2面「横浜商況」欄に掲載〕
233	【円銀貨の貿易銀としての通用実現】　実現に至る経緯を回顧しその意義を解説。円銀貨による《亜細亜大州の貨幣権》の掌握を展望。
235 b	【欧州における生糸需要の減退】　東京「タイムス」記事の訳出。需要減退の一因として絹物の品質低下を指摘。
236	【生命請合会社の事】　近頃は、自ら商業を営まずとも銀行・貯金預所・商工諸会社・公債証書諸株式など資本を殖やす術は多様になったが、火災保険と《生命請合》の二つは欠けている。火災保険についてはその意義と必要性を折に触れて紙上でも述べてきたが、《生命請合会社》については時期尚早と思い言及してこなかった。しかしようやく時期も熟してきたと考えていたところ、偶々社友からの寄書があったのでそれを紹介する。それに先立ち、《生命請合会社》の利点について要点を記す。
237 a	【生命請合会社の事】（続き）　社友某投寄の紹介。《生命請合会社》の役割を解説しその早期の創設を望む。末尾に、豪商有志による《生命請合会社》出願の速報を本紙記者の筆で掲載。
237 b	【海外相場動向】　里昂の生糸（8月9日出通信による）、紐育の生糸・茶・為替など（9月4日出通信による）の相場情報。
237 c	「伊太利養蚕収穫」　「メール」新聞掲載のイタリア新聞抄録記事の訳出再録。
238	【条約改正に関する東京商法会議所建言】　条約改正問題に関する東京商法会議所の建言（政府諮詢への回答）全文を掲載。
240 b	【各地秋作の景況】　《近日友人の九州より四国中国を経東海道を陸路帰京

第2表　記事の内容　　（その12）

号数	内　　容
	せしものに就て該地方の景況を聞く》
241	【製茶共進会会議略記】　19日開催の製茶共進会会議の議事摘録。同日の題目は販売。
242 b	【近海船賃騰貴】　《欧羅巴大州の凶歉により米国に小麦の供給を仰ぐこと頗る劇しく為めに諸船舶は皆其使用に転じ東洋を廻漕するもの大ひに減じ近海の船賃は三割の騰貴を現はせり》
242 d	【諸船入津速報】　和歌浦丸（米）、高千穂丸（米）、白峯丸（開拓使官物檜材）。
242 f	【株式取引所金銀貨幣売買手数料】　239号記事中の手数料に関する誤聞を訂正。
242 g	【倫敦紅茶相場】　《気配活発なり》。18日出電信の速報。
243 a	【商人に結合力が求められること】　輸入唐糸金巾名等の梱包鉄箍取扱いをめぐる交渉で、横浜引取問屋が結合力を発揮して外国商館に対抗していることを紹介し高く評価。転じて、横浜売込問屋には結合力が乏しく外商につけいられていることを慨嘆。
243 b	【支那本年生糸の出来】　上海ならびに廈門からの報告
243 c	【欧州凶歉と米国からの穀類輸出】　「倫敦商業日記」より。
244 a	【条約改正に関する外国新聞論説への批判】　条約改正問題に関する東京商法会議所建言は本紙を始め各新聞がそれを掲載した。しかし嘆かわしいことには、その後邦字各新聞はこの建言に対する論説をほとんどおこなっていない。他方で横浜の外国新聞は建言書を訳出のうえ盛んに論説を行っている。その内容には感服しがたいが新聞としての務めははたしているというべきであろう。そこでそれら外国新聞の論説の《大意を摘出して一言の以て其迷妄を破却する所あらんと欲す》。（続く）
246 a	「牧畜性命受合会社を創立すべき論」　流行病（「リンドルピスト」病）による大量死があるために、牧畜業を冒険者の業として忌避する傾向がある。これを解決するために、「牧畜性命受合会社」の創立を提案したい。日耳曼（ゲルマン）にはすでにこうした会社があるとのことである。
247	「米況」　豊作にもかかわらず米価が高値にとどまっている事情を解説。
248	「外国直取引」　日本人商人による外国との直取引は、多少の進歩はあるものの依然一割にも満たぬ低水準にある。これは日本人商人がいまだに消極的なためである。直取引を行い外国の事情を直接知ることとなれば、《外商の籠絡》を脱することは容易となり、我が国の物産を外国の風俗嗜好に合わせて改

第2表　記事の内容　　（その13）

号数	内　　容
	良し流行に適応させることも可能となる。《外国に於て直取引を為すを以て我が商估の緊急事件とする所以なり》。
249 a	「外国直取引至難の弁」　外国との直取引が至難であるとされる理由には、①外国での支店開設には巨額の費用を要すること、②直取引を行える人材の不足、③貿易金融の便に欠けまた為替変動により収益計算が困難なことがあると指摘。①②については、近年は米国に佐藤組・起立工商会社・森村組・佐野組・三井物産会社が、フランスには起立工商会社と三井物産会社が、英国には三井物産会社が、香港には廣業商会と三井物産会社が、上海にも廣業商会と三井物産会社がそれぞれ支店を置いており、中には他人の荷物を取り扱う問屋の業務を営むものもあるので、これに依頼して直取引を試みることも可能である。一度は自ら渡航して外国の事情風俗を視察したうえでこれらに依頼をすれば①②の難点は乗り越えられよう。③については、現在進行中の正金銀行の創立がなれば救済の途が開けるであろう。
249 b	「支那及日本ノ貨主諸君ニ告グ」　《商業ノ多寡ニ応ジ船中ノ積荷ヲ整理センガ為メ日本及支那ノ間ヲ航行スル線路ヲ部列シタルヲ以テ（中略）報告ス》との倫敦同盟会社九名連署による公告。〔4面掲載〕
250	「正金銀行」　当今我が国では多数の銀行の創立を見るがそれらは皆《紙幣銀行》である。正貨をもって行う海外貿易の仲立ちは横浜の外国銀行支店に依存せざるを得ず、不便かつ不利であり、正金銀行の設立が必要とされる所以である。正金銀行が創立されれば、輸出入の季節的変動に伴う銀貨価格の高低を緩和させる方策がとられることも期待できる。
251	【正金銀行営業の難易】　正金銀行は我が国にぜひ必要であるが、その営業は決して容易ではない。正金銀行が資本とすべき銀貨は、輸出入の不均衡を補填するために海外へ流出する傾向にあり、正金銀行にとっては正金（銀貨）の貸付は容易であろうが、その償還は容易でなかろう。輸出品への金融はその需要が限られるであろう。輸入品への金融の需要は多かろうが、みだりに応ずれば輸入増加につながりかねない。紙幣抵当貸しは投機筋の需要が多く弊害を生む恐れがある。正金為替の需要もそれほど多くはなかろう。正金銀行の出願者たちは、その業務を漸次外国に広げ、荷為替をはじめその他百般の為替割引などをも担う意図であろう。それは我が国の貿易や殖産に大いに補益するものであるが、外国との直取引を営む商人はいまだ少なく、外国銀行との競争もあり、実務経験のある者も乏しいなど外国営業は大変困難なものとなろう。したがって正金銀行の株主となる者にはそれに耐える覚悟が求められる。
252	【生糸繭共進会審査結果】　先に発表・表彰が行われた生糸共進会の審査結果を掲載。生糸は重要な輸出物産であり、積年の努力の成果を表彰された生産

第2表　記事の内容　　（その14）

号数	内　　容
	者の功労は大である。しかし、我が国生糸の海外市場での価格は、イタリア、フランスの産品に比して、また「支那」の上等品に比しても低く、生産者は益々奮励振起して伊仏を凌駕することを目指して欲しい。
253	【商法学校の必要性】　欧米ではどの国にも商法学校があり商人を志す者は皆そこで各国の法律人情風俗物産・取引の慣習・郵便電信の規則・簿記文章早算・銀行業務等を習得したのち実務に就いていることを指摘し、オーストリア・ベルギー・合衆国・フランス・英国の商法学校を紹介。日本では他の分野には専門の学校が設立されたが商業についてのみいまだにそれがなく、これでは日本の商人が欧米の商人と対等に渡り合い商権を快復することは困難である。そうした中でいささか将来に希望を繋げるものは木挽町の商法講習所あるのみである。（続く）
254	【商法学校の必要性】（続き）　東京商法講習所の経費を府税で負担することを決めていた東京府会が、三菱会社からの東京商法講習所引受の上願を入れて一切を引き渡そうとしているとの噂があることをとりあげ、商法学校は公立となし商法会議所と親密の関係を持たせることが必要であるとして、その動きを批判。
255 a	【里昂における生糸取引事情】　近日仏国より帰朝した社友の投寄文を掲載。里昂で取引される日本産生糸には様々な品質のものが混在しているため、商標による取引ができず、一俵一俵を開いて検査をして取引がなされている。そのために余分の経費がかかり、また商品の毀損も生じていることを指摘。製糸家ならびに生糸商人は海外での需要者の要望を知ることに努め、《輸出の目的を定め「デニール」の整一なる生糸を製出》することが必要である。
255 b	【船賃の昂騰】　海運需要が多く沿海・海外いずれも運賃が昂騰している。
256	【里昂で販売する糸の量目欠減の理由】　里昂で販売される生糸の量目鑑定の方法を紹介し、量目欠減となる理由を説明。
257	【全国作割ならびに新米東京入着対前年比較表】　東京商法会議所納会における内国商業事務委員報告よりの速報。
258 a	「米国生糸の景況」　横浜毎週「メール」新聞記事の訳出。
258 b	【里昂生糸市場の見通し】　或仏字新聞では、リヨン市場で生糸需要が高まり品不足が起きるであろうと見通している。
259 a	「茶貿易衰盛概計表」　共進会報告より茶貿易の盛衰を調査した部分を謄載。
259 b	【里昂生糸相場】　10月31日発里昂府通信によれば、生糸相場は漸々低下の傾向にある。

第2表　記事の内容　　（その15）

号数	内　　容
260 a	【東京商法会議所議員米況報告】　東京商法会議所納会での議員報告（257号にその一部である作割表と新米入着表を掲載）の要録を掲載。（続く）
260 b	【11月中各港輸出入表】　大蔵省関税局編纂の11月中各港輸出入表の速報。120万円余の出超。
263 c	【倫敦市況】　7日出電報による。
266 b	【会社銀行実際報告要領】　諸会社銀行（兜町米商会所・第一国立銀行など全8社）の昨年下半季の実際報告の要領（株金高・準備金・当期積立金・配当利益・配当歩合）を掲載。
266 c	【ボール・レヴェル号出港】　12月1日石油・石炭・煙草・塩酸を積んで紐育を出港。
266 d	【足利市場の取引】　野州足利町物産取扱所の調査による明治12年4月から12月までの取引高。
267 a	「金融の現況」　本年に入って《金融は繁劇にして実に其極度に達せんとするの勢》にあると指摘。その理由を資金が離散して輸入品の消費に向かっているためではないかと推測。
267 b	【欧州の穀物需給】　11月22日付倫敦「エコノミスト」新聞記事の紹介。
267 e	【各地の天候】　「東京日日新聞」記事転載。
268 a	「米国今日の富饒は如何して得たるもの乎」　1872年の《一大変動》からの回復の要因を分析。特に農産物の役割を強調。
268 c	【12月中各港輸出入表】　大蔵省関税局編纂の明治12年12月中各港輸出入表の速報。24万円余の出超。
268 d	【山城丹波丹後の稲豆綿収額】　「大坂日報」に掲載された京都府管下山城丹波丹後の昨年稲豆綿収額表の数値を抄出紹介。
269 a	【商売を営むにあたって調査活動が重要であること，今回東京商法会議所が重要物品についての調査活動に取組むことになったこと，商人はこうした調査を十分に利用すると同時に調査依頼があればぜひ協力をすべきこと】　今日商売を営むにあたっては物品の産出高・製造高・積出高・輸入高・消費高・船舶出入等々についての調査活動が不可欠であるが、この点において日本商人は外国商人にはるかに及ばない。今回東京商法会議所が重要物品についての調査活動に取組むことになったことは大いに悦ばしい。商人はこうした調査を十分に利用すべきである。調査を充実さるためには各地商法会議所ならびに商人の協力が欠かせない。
270 a	「米国輸出入」　米国の輸出入金額及びその商況報告（1878年7月～1879年6

第2表　記事の内容　　（その16）

号数	内　　容
	月）を紹介。
270 b	【農家の現米貯蔵】　各地からの報告によると、農家は昨年の豊作と米価騰貴で余裕を持ち、今年が不作となる可能性もあると見て現米を貯蔵している。
270 c	【米国綿試作の成果】　勧農局「明治十一年米国綿試作一覧表」により、米国綿の日本での試作結果を紹介。
270 d	【兵庫より通信】　1月31日出の通信。米売買の動向など。
271 a	「陶器の輸出」　昨年は陶器輸出の伸びが顕著であった。我が国は天与の陶材に恵まれており、欧米各国の嗜好に適合した日用必需の品を廉価で製造できるように製品ならびに製造工程の改良に努めれば、海外市場（とくに米国）での需要を大いに拡大しうる可能性がある。
271 b	【外国商館による唐糸買入】　本国での相場騰貴のため、外国商館が日本人商人の所持品を買入れている。
272 a	「三井物産会社社長益田孝謹て同業諸君に告ぐ」　《海外の商事に訓熟し所謂独立の商事を営み外商の籠絡を脱却せん》ことを目的に三井物産会社を創立し《有志者を慫慂鼓舞して直輸出を為さしめ直取引を営ましめんと欲するも遥かに其功奏する能わず》という現状である。そこで《我が商估をして海外の状況を知らしめ其胸算籌画を誤らしむるなきを期し那の外国商人の籠絡を免かれしむるより急務なるはなし》との考えから、三井物産会社が持つ海外商業事情についての情報・知識を、望む者があれば惜しまず提供するので、ぜひ来社して相談されたい。
272 c	【香港の市況】　香港よりの通信による。砂糖・ブリキ・樟脳などの市況。
272 d	【紐育からの石炭油積出し】　昨年中の東洋諸国向け積出し高。
272 e	【エスカンヒヤ号の航海】　横浜停泊中の英船エスカンヒヤ号が砂糖を積み入れて倫敦へ出港するとの噂がある。
273 a	【米国加里福尼（カリフォルニア）小麦産出の近況】　訳出。出典不詳。
273 c	【日本銀貨の香港での通用を求める願書】　香港在住の「支那」商人及び各銀行等が香港太守へ提出。
274 c	【長野県下の近況】　金融・養蚕・西洋物への需要等
274 d	【生糸商人への注意】　日本人商人の一部が、器械糸ならびに掛田糸の贋物を造り荷造りを粗悪にして利益を得ようとしていることへの警告。「ヘラルド」新聞（19日付）が掲載した紐育リチャルドソン商会生糸相場報告より。
274 k	【会社銀行実際報告要領】（続き）　15社

第2表　記事の内容　　（その17）

号数	内　　容
275 a	「米国致富の源因如何」　合衆国の輸出品において農産物が巨額をしめることを指摘。いかにしてそれが可能となったのか、また農産物を海外へ輸出することの得失を検討。〔明記はないが、米国文献からの訳出と思われる。〕（続く）
275 g	【大坂の金融】　「大坂商況新報」記事転載。
275 h	【種油の市況】　「大坂商況新報」記事転載。
275 i	【滋賀陶器の減産】　「大津日報」より。
276 a	「米国致富の源因如何」（続き）　《粗生飲食物を海外に輸出するを止め内国に製造事業を起す》ことが急務であると主張。
276 b	【倫敦の市況】　1月9日出通信。
276 g	【長崎の商況】　昨年中の長崎の商況。横浜毎週「メール」新聞掲載の「長崎商状」による。
276 h	【函館の米価】　「函館新聞」記事転載。
277 b	【堂島米商会所の市況】　2月27日で書状による。
277 c	【降雪の影響】　一昨日からの降雪の米価、麦作への影響。
277 d	【昨年下半季中各港輸出入表】　大蔵省関税局編纂の明治12年下半季各港輸出入表。92万円余の入超。
277 e	【米船の火災】　神戸港停泊の米船「セント・チャアレス」号（石油6万箱積載）から出火し、船・積荷共に焼失。「がゼット」新聞（3月1日）が神戸電報で報ずる。
277 f	【紐育石油輸出高】　「支那」及び日本向け輸出高。
278 c	【石巻近況】　野蒜港築港の進捗、米価相場。2月24日出通信。
278 d	【遠州の茶作】　「函有日報」記事。
278 e	【滋賀日報農事通信】　菜種、豆類の生立。
278 f	「倫敦米況一月一日の報」　日本米輸入の状況。
278 g	【日本銀貨通用に関する香港商法会議所の上申】　2月24日での通信。
278 h	【台湾糖の輸出】　1月～2月6日までの、太沽及び台湾府からの輸出高。
278 j	【初鯡の相場】　「函館新報」（2月22日発）記事。
279 a	【香港商法会議所討論筆記】　2月23日の香港商法会議所においてなされた日本銀貨を本位貨幣にせんとの討論の筆記から概略を訳出。（続く）

第2表　記事の内容　　（その18）

号数	内　　容
279 b	【堂島米商会所で南京米受渡を開始】　大坂よりの電報
279 c	【越後酒の東京回漕・再論】　「報知新聞」の越後酒は悪酒との報道へ反論。
280 c	【海外出店商人の会合】　《我が商人にて海外へ出店し商売するもの即ち三井物産会社起立工商会社大倉組森村組佐藤組等毎月一回宛集会し専ばら親睦協力して海外貿易を振起せんと謀られ既にその第一会は去月十六日会議ありし》
281 a	「大坂堂島米商会所規則の改正」　米商会所が《空相場の賭博場》と化している現状を批判。大坂堂島米商会所がそうした弊害を除くために行った定款及び申合規則改正の要領を紹介。東京その他の各地米商会所においても現在の悪弊を除去する対策を講じなければ廃絶の危機に瀕するであろうと警告。
281 b	【府下の金融】　《流融となるべききざしあり》
281 e	【紐育の市況】　1月30日出通信。
282 a	「外国米を限月売買の受渡に用ひしめば如何なる結果を生せん乎」　大坂米商会所の申合規則改正で限月売買の受渡しに「支那」朝鮮米の利用を認めたことを批判。
282 b	「信州上田去る十六日出の通信」　米・生糸・金融
283 c	【日本堅炭に外国人の人気】　「大坂新報」記事による。
284 a	【セント・チャアレス号火災の後日談】　即時の保険金支払。船体・積荷の競売。消火と船体・積荷の引き上げによる巨利。
284 c	【アルコールの試作】　西宮での取り組み。「兵庫県勧業報告」第九号より。
284 d	【伊予松山高機縞同業者の結社】　「兵庫県勧業報告」第九号より。
284 e	「英国茶の商況」　1月19日の報。
284 f	【英国よりの輸送品高】　昨年12月27日～本年1月24日の英国よりの日本向け輸送品高。
285 a	「大坂堂島近況」　堂島米商会所で大規模な先物思惑売買戦がなされ、結局買方が行き詰まり違約処分に至った。現在示談中である。
285 b	【ツラウアンコール号座礁】　太平洋汽船会社船「ツラウアンコール号」が南イタリアで座礁。「香港日々新聞」による。
285 c	【大坂の金融】　「商況新報」より。
285 d	【オレンドル号出港】　長崎より石炭を積載して上海へ出帆の予定。

第2表　記事の内容　　（その19）

号数	内　　容
285 e	【秋田県の市況】　「郵便報知新聞」による。
285 f	【紐育よりの石炭船】　米国帆船「セントニヤー」号は1箱も陸揚げせずにマニラへ向け出帆。その後へ米国帆船「モールス」号が入港。「郵便報知新聞」による。
286 b	「大坂堂島近況」　前号で報じた堂島米商会所の紛擾の続報。
286 d	【甘蔗絞機械の新発明】　上海「クウリール」夜報南港通信による。
286 e	【欧米での日本物品の流行】　日本の扇子に人気。東京「タイムス」新聞による。
287 a	【米価と銀貨相場】　米価騰貴の現状によせて、銀貨相場の騰貴が米価相場の騰貴に繋がる構造となっていることを解説し、輸入品購買を減少し銀貨相場を安定させる必要を説く。
287 c	【紐育よりの石油船の出港】　「支那」及び日本向け石油船出港の見通し。
288 a	「商估社会の一大変動」　東京株式取引所横浜取引所の金銀貨売買及兜町蠣殻町米商会所の売買停止（12日）に至った事態を捉えて限月取引を有害視しその廃止を主張する議論があることへの反論を展開。（続く）
288 b	【米商会所・株式取引所の売買停止】　兜町米商会所、蠣殻町米商会所、東京株式取引所の取引が、非常の乱高下のため12日に売買停止となった。
289 a	【米商会所及株式取引所の条例改正】　政府が布告した米商会所及株式取引所の条例改正の要領を紹介。政府が限月売買の意義を認識していることを評価したうえで、米商会所定期売買の証拠金は過多であり、公債証書株式仲買の身元金は過小であると指摘。
289 b	【限月売買の解け合の状況】　限月売買停止以来の取組解け合いの進展状況。
290 a	【イタリア蚕種の景況】　ミラノ在留の社友よりの通報抄録。
290 b	【各地米商会所解け合の景況】　電報での問い合せ結果
290 h	【東京商法会議所臨時会】　米商会所株式取引所条例改正について討議のため本日臨時会を開催。
291 a	【米商会所の定款申合規則等の改正】　兜町・蛎殻町両米商会所の定款申合規則等改正の要点。
291 b	【東京商法会議所臨時会】　21日開催の臨時会において、太政官第21号布告の疑問点の説明を求めることと大蔵省乙第18号布告の取消を嘆願することが決まった。

第2表　記事の内容　　（その20）

号数	内　　容
291 e	【倫敦通信】　3月3日出通信。諸商品の商況。三井物産会社注文の蒸気船「頼朝丸」竣工。
291 f	【ミラノ通信】　ミラノ在住社友より。日本蚕種の直輸出を妨害しようとする動きがあったこと。
291 g	【英国よりの輸送品高】　本年1月25日～2月29日の英国よりの日本向け輸送品高。
291 h	【清国の茶不作】　茶不作で価格騰貴。清国在留の日本人茶商人より兵庫の商人へ当てた書状。
291 i	【米国に於ける絹織物業】　米国の絹織物業が進歩を遂げ欧州の伝統国に匹敵するまでに至ったこと。その米国で日本生糸の声価が高いこと。東京「タイムス」新聞紙上の「米国商業新誌」よりの抜載記事による。
292 a	【紙幣減少の必要】　日本の財政商業の現状を分析し、Ｊ・Ｓ・ミルの理論に依拠して紙幣減少の必要を主張した「横浜メール」新聞社説の抄訳。
292 h	【3月中各港輸出入表】　大蔵省関税局編纂の明治13年3月中各港輸出入表の速報。116万円余の入超。
292 i	【兵庫米商会所の市況】　解け合の進展状況と正米の市況。23日の通信による。
293 g	【赤間関米商会所限月米解合広告】　馬関よりの通信。
294 b	【東京・横浜取引所の金銀限月売買再開】　昨日より立会い再開。東京取引所の定款申合規則改正の要領を紹介。
294 e	【朝鮮釜山浦の景況】　4月24日出通信による。
295 a	「近今商業の危険なる賭博に等し之を匡済する責果して誰に帰する乎」　投機心蔓延の原因は通貨変動が甚だしいことにあると主張。
295 b	【大蔵省による府下国立銀行有金調査】　《道路の風説に聞けり》
295 c	【各地より東京横浜への為替取組急増】　銀貨低下により輸入品引取の動きが起きている。
295 f	【倫敦の商売必迫（パニック）】　諸商品一時に下落。電報による。
295 g	【安値払出米】　新聞広告のうえで安値払出米が行われたが、市中の問屋搗米屋では大新聞を読むものが少なく十分周知がされなかった。結局仲取次米商人が多く買入れることとなってしまった。手続きの不整頓が惜しまれる。
295 h	【ミラノよりの通信】　3月26日出。蚕種・生糸・「支那」日本雑品販売店の開店。

第2表　記事の内容　　（その21）

号数	内　　容
296 a	「近今商業の危険なる賭博に等し之を匡済する責果して誰に帰する乎」（続き）　紙幣価格を回復させる政策と、その過程での急激な変動を防御する方策を政府に要望。
296 d	【甲州よりの通信】　先月27日桑への霜害、米価、麦・葡萄等の作況。
297 a	【正貨主義の断行】　政府による銀貨売り出しは一時的に相場騰貴を抑える効果はあっても、年間約一千万円の入超がある以上根本的な対策とはなりえない。《吾輩甚だ好まざる所と雖も其貿易平均を得せしむるや姑らく輸入を減じて輸出と相平均をせしむるも亦不得已の方策なり》。政府と国立銀行が発行した大量の紙幣が分裂離散して消費に向かったことが輸入品増加の一大原因である。
297 c	【新鯡の相場】　先日函館より高千穂丸にて入津の新鯡・身欠鯡などの取引相場。
297 e	【上州の養蚕景況】　13日出通信による。
298 a	【正貨主義の断行】（続き）　輸入増加・銀貨高騰の現状を救うためには《政府断然として正貨主義を確立し年限を堅約して漸次快復するの謀を為さざるべからず》。《此際に方り幾分か通貨を減縮するに逢はば利足は益々騰貴すべく為に事業も起こらざるく将さに何を以て前途殖産の希望を充たしめん乎と難ずるものあらん是は吾輩も思はざるにあらざれども斯く集合力なき通貨は何程饒多なるも全く有害無益なれば一時は尚ほ困迫を現すも断然として之を執行せざるべからず然らば則ち資本は益々必迫し利足も必ず沸騰すべく由て銀行者は散布の通貨を蒐集するを務め少部分の通貨は必ず集合すべきなり》《假令其間百種の名義を假りて恩恵を政府に願請するものあるも断乎として之を拒絶せば一時の困迫は却て人心を奮励し協同資本の会社陸続興起し事業の進歩も今日に幾倍するに至らん》。なお、正貨主義快復の実例を英国1823年と米国1880年に求めることができると指摘し、後日その詳細を紹介すると約束。〔英国については、302・303・304号で、米国については306・307号で紹介。309号でそれらを総括。〕
298 d	【横浜への砂糖輸入高】　太沽その他からの輸入高と在庫高。
298 e	【東京商法会議所定式会開催】　5月18日開催
298 f	【信州上田で米価騰貴】　12日より米価俄に沸騰。15日出通信による。
298 g	【越中伏木の米況】　5月10日の通信。
298 h	【ミラノよりの通信】　4月4日出。生糸の市況、出殻屑物等の取引事情。
299 a	【東京大坂株式取引所並に横浜取引所の金銀貨幣定期売買の差止め】　5月19

第2表　記事の内容　　（その22）

号数	内　　容
	日太政官布告第24号により差止められた。
299 b	【横浜取引所株式限月売買の紛擾】　横浜取引所の金銀貨幣定期取引差止めが同取引所株式の限月売買での紛擾を惹起した。
299 c	【横浜銀貨の取引】　差止め後の対応措置
299 d	【内国塩問屋会所の取引規則等改正・訂正】　前号記事の訂正
299 f	【朝鮮国釜山港輸出入表】　昨年7月～12月の釜山港輸出入表より日本関係を紹介。
300 a	「米国桑港四月三十日発の通信」　米国見聞記。
300 c	【川村永之助氏イタリアへ出張】　秋田県下川尻組の川村永之助氏が蚕種研究のためイタリアへ出発。
300 d	【南京米等の輸入】　穀類高値のため横浜へ南京米・大豆などが続々輸入されている。さらに〆粕類の昂騰により豆油粕も輸入されている。
300 e	【横浜への入港船】　英船「チング・ツー」号並に同「ロード・オフ・アイスル」号が太沽より砂糖を積載し入港。
300 h	【山形南村山での雹害】　5月17日に発生。「山形新聞」による。
301 a	【風帆船の航路】　東京海上保険会社の調査による。
301 c	【電信の不通】　シベリア地方の電信が一時不通。上海・廈門間電信も不通となり現在修繕中。
301 d	【海外での日本花卉草木果実の人気】　「メール」新聞による。
301 e	【函館の金融切迫】　5月23日「函館新聞」による。
301 g	【越後地蔵堂町より通信】　5月24日出。苗代の生育順調。麦菜種も上出来。米価も下降。
301 h	【横浜への入港船】　日耳曼（ゲルマン）船「アントロクロス」号が太沽より砂糖を積載し入港。
301 i	【限月米五月限受渡高】　兜町米商会所ならびに蛎殻町米商会所。
302 a	「英国に於て紙幣交換を挙行したる手続」　298号で掲載を約束した《英米紙幣下落の状況大略を摘約》する。〔出典不明〕
302 b	【上州藤岡の養蚕景況】　5月29日出通信による。
302 c	【紐育より横浜へ出帆したる船】　4月20日～25日に出帆したバナイ号とウオクヰル号の積荷。

第2表　記事の内容　　（その23）

号数	内　　容
303 f	【信州の養蚕景況】　6月1日出、上田よりの通信による。
303 g	【天保銭の通用禁止】　「東京日々新聞」による。
303 h	【豊前中津の米況】　豊前中津「田舎新聞」による。
303 i	【米国へ積出しの茶】　本日出帆ベルヂック号にて米国へ積出した茶の数量。
304 b	【府下5月の米況】　5月中の東京への流入高・前月持越高・消費高・貯蔵高・相場等。
304 c	【欧州新糸の景況】　6月2日フランスよりの電報。
304 d	「米国在留協同会商事景況」　在米日本人商人の協同会より高木領事へ提出した商事景況より抄出。米国向け陶磁器・漆器の米国市場での評価と改良すべき点。
304 e	【横浜への入港船】　英風帆船「キルケラン」号が紐育より石油を積載し入港。独国風帆船「ゴスタブ」号が太沽より砂糖を積載し入港。
304 f	【天保銭の通用禁止・取消】　前号記事は無根につき取消
305 b	【養蚕の景況】　欧州の生産高・本年「支那」糸の出来・日本糸の出来
305 d	【兜町・蛎殻町両米商会所仲買人数】　本日までに身元金を差し入れ組合を定める人数。
305 e	【兜町当月限食合高】　未だ解け合にならざる食合い高
305 f	【越後長岡の養蚕景況】　6月8日出通信による。
305 g	【朝鮮釜山浦の景況】　米穀輸出禁止・英国軍艦寄港・非常の不景気。
306 b	【信州の養蚕景況】　6月10日出、上田よりの通信による。
306 c	【横浜の柴昆（サイゴン）米】　横浜港に入荷した6万担以上の柴昆米が、日本米商並に投機者等が流した風評のため売立てできずにいる。「ガゼット」新聞による。
306 d	【神戸在留支那人による洋銀相場所開設】　6月8日に開設。その規則の大略。
306 e	【横浜港の輸出品】　5月中の輸出物品数量と価格
306 f	【欧州の養蚕景況】　イタリア・フランス・スペイン・トルコの養蚕の近況と里昂の市況。4月28日報告より抜萃。
307 b	【東京商法会議所府下商況報告 5月分】　かねて決議された府下商況報告の第１回5月分が報告された。

第2表　記事の内容　　（その24）

号数	内　　容
307 d	【羽後土崎の近況】　田植えの進捗・烈風大雨の害・養蚕育立。6月10日出書状による。
308 b	【神戸外商の米買付】　神戸の外国商人が日本米輸出のために買付けを行っている模様。
308 c	【欧州の養蚕景況】　イタリア在留社員より5月2日出の通信による。
308 d	【兜町米商会所の公告】　六月限受渡米の皆代金及増入金の取扱いについて。
308 e	【各地商法会議所の近況】　大坂商法会議所は、朝鮮元山津開港に付き、同地へ視察のため委員を派遣。石川県下越中富山にて商法会議所創立を出願。
309 a	「米国紙幣の増減」（続き）　302・303・304号での英国、306・307号での米国の事例紹介を踏まえての結語。米国の状況は我が国の状況に匹敵するところが多く参考となる。《吾輩米国の処置に付き大に感じ我国の軌範として之を倣はんことを冀ふものあり乃ち彼の一旦決定せし所の目的は確乎として漫りに交換することなきと之を履践執行するや急進倉卒の挙動に陥らず徐々として事を処するの二項とす》。具体的には、政府冗費の節減で年間4～500万円の紙幣焼焚を5年間続けることを提言。政府財産売却により一時に数千万円の消却を図ることや、国立銀行の紙幣発行枠を削減する政策は望ましくないと指摘。人民の政府に対する信用を厚からしむることが緊要であり、政府が計画を強固にし、法令約束を重んじ、会計を公示すべきと提言。
309 c	【麦の豊作】　日本・英国・「支那」天津近傍で豊作。
309 d	【横浜への入港船】　英船「オフェリア」号が紐育より石油を積載し入港。
309 e	【米国生糸商業会例年会報告】　5月5日紐育にて開催された生糸商業会例年会での報告大要。「メール」新聞より抄出。
310 b	【長野県下の養蚕景況】　桑葉不足が生ずる。上田6月26日発通信による。
310 c	【頼朝丸横浜入港】　三井物産会社発注の頼朝丸は、4月1日竣工、同15日倫敦出帆、6月26日横浜へ入港した。
310 e	【清国広東郊外で洪水】　「デーリー・プレス」新聞による。
310 f	【紐育よりの通信】　茶の市況・生糸の市況
311 a	【5月中各港輸出入表】　大蔵省関税局編纂の明治13年5月中各港輸出入表の速報。191万円余の入超。
311 b	【風帆船会社設立の願出】　東京・大坂・桑名・新潟・伏木・石巻等の著名人数名の発起で資本金30万円の風帆船会社設立願いを出願。

第2表　記事の内容　　（その25）

号数	内　　容
311 c	【横浜の生糸市況】　甚だ気配進まず。
311 d	【米国での日本茶の声価下落】　一部製茶商人による他葉混入のため。目先の利益に走るべからずと警告。
311 h	【天鵞絨並友禅染の好評】　西洋各国で、西陣産の天鵞絨並に友禅染が好評で続々と買い込まれている。
312 a	「生糸の事」　明治12年7月～13年6月に横浜より輸出された生糸に関する調査。「ウヰキリーメール」より抄訳。
312 b	【支那米売買会所】　このほど築地船松町に開設した「支那米売買会所」での取引手順と現況。
312 c	【石炭油の限月売買】　築地小橋近傍で「支那」人名義で開設。
313 d	【横浜への入港船】　独逸帆船「アンナ・ベルサ」号が太沽より砂糖を積載し入港。
313 e	【明治11年全国諸麦収穫表】　勧農局農事月報第8号より。
314 a	【府下6月の米況】　6月の東京への米穀流入高・前月持越高・消費高・貯蔵高・相場等。
314 c	【深川在米の探訪】　東京米商人の持品は案外僅少。
314 d	【南京米限月売買所並に石油相場会所の停止】　築地外国人居留地に開設された両会所につき府知事より諸国領事へ掛合いをして中止せしめた。
314 e	【両米会所未だ解停せず】　仲買は1200円の身元金を差入れたまま解停の達しを待っており、中には廃業を願い出る者も現れた。仲買連名の嘆願書も東京府庁へ提出された。
314 f	【開進会社の近況】　北海道開墾と植民に尽力する開進会社の近況。「朝野新聞」より。
314 g	【横浜への入港船】　英帆船「アンキス・ニウトン」号が太沽より砂糖を積載し入港。仏汽船「ヴォルガ」号は香港よりの砂糖・雑貨、欧州よりの雑貨等を積載して入港。
315 a	「輸入品勘定書」　《輸入物中の重なるもの一二に付産地にて買付横浜へ輸入し如何なる計算に成る歟を調査》。その第１回として唐糸買付計算書を掲載。
315 b	【米国ので日本茶の景況】　需要がやや減じ、供給が増大したため価格低迷。5月13日刊行「コンメルシャル・アドベルタイセル」による。
315 d	【諸会社銀行実際報告】　本年上半季の要領摘出

第2表　記事の内容　　（その26）

号数	内　　容
316 a	「日本生糸商業の衰運」　「ガゼット」新聞社説の大意訳出。
316 b	【新米前品かすりの懸念】　深川在米は少なく、今後の荷送りも期待しがたいので、新米前に品かすりとなる懸念もある。
316 c	【信州の景況】　養蚕・地理・主要市街・銀行・気候等。在信州長野友人よりの通信による。
316 e	【足利市場の取引】　野州足利町物産取扱所の調査による明治13年1月から6月までの取引高。
317 c	【上州前橋糸市の景況】　7月19日開催
317 d	【打狗（タカオ）砂糖の景況】　天候不順のため品薄で高値。
317 f	【6月中各港輸出入表】　大蔵省関税局編纂の明治13年6月中各港輸出入表の速報。69万円余の入超。
318 a	【各地稲作進捗状況】　《土用入の時候適否は水田培養上大なる関係あれば随て米価に影響することも亦甚だ重きを以て嘗て東西各地に依頼し其概況電信を得たれば左に掲ぐ》
318 b	【府下の金融】　金融は《聊か弛みたる姿に見ゆ併し一般商業の不景気は物価の騰貴と共に日々に甚し》
318 c	【1月～6月各港輸出入額】　本年1月～6月の各港輸出入原価を合計すると755万円余の入超となり、金銀の流出・紙幣の下落が続く。
318 e	【米国穀類等の輸出】　投機筋買持ちの穀類等が売りに出され、未曾有の輸出増となっている。
318 f	【上州前橋糸市の景況】　7月24日開催
318 g	【横浜への入港船】　英汽船「フレウルス・カスル」号が上海より石炭を積載して入港。英帆走船「カイソウ」号がニウカスルより石炭を積載して入港。汽帆船和歌浦丸が神戸へ、玉浦丸が函館へ出港。
319 a	「輸入品勘定書」（315号の続き）　砂糖買付勘定。
319 b	【米商会所解停の目途たたず】　仲買の苛立ちと解停時期の憶測。
319 d	【藍作の景況】　徳島藍会社の報告。「伊勢新聞」より。
319 e	【南京米に買人気】　日本米昂騰による。
319 h	【横浜への入港船】　30日汽船東京丸・英船「コムース」号・同汽船「オシャニック」号・仏汽船「メンサレー」号、31日英汽船「カントン」号。
320 a	【米国農業より学ぶべきこと】　《在米知己某よりの私信中より抜抄》。

第2表　記事の内容　　（その27）

号数	内　　容
320 e	【オシャニック号の積荷】　本日米国桑港へ出港のオシャニック号の横浜より積出しの生糸並に茶の個数。
321 a	【東京商法会議所臨時会開催】　8月5日開催
321 c	【府下7月の米況】　7月の東京への米穀流入高・前月持越高・消費高・貯蔵高・相場等。
321 d	【信州の景況】　8月1日出、上田よりの通信。
321 e	【石巻の景況】　7月29日出通信。
321 f	【福島の景況】　8月2日出、福島県下庭坂町より。
321 h	【欧州への生糸積出し】　昨日出帆の仏汽船「タナイス」号積載数量。
322 a	「十一年農産表抄録」　勧農局「明治十一年全国農産表」より主なものを抄録し前年との増減を比較。
322 b	【米商才取の利潤】　米価騰貴で意外の利潤を得る。
322 c	【大坂の米況】　「大坂通信」より。
322 d	【上州前橋糸市の景況】　8月4日開催。
322 e	【朝鮮釜山浦よりの通信】　気候至て冷気。元山津に天城艦未だ碇泊。
322 g	【兵庫港上半季の輸出入】　「兵庫ニース」による。
323 b	【米商会所解停問題】　4月以来の米商会所の取引停止を現米直取引に限り9月1日より解除するとの達しが東京府より出たが、米会所役員・株主・仲買一同は現米取引のみでは米商会所の意味はないとして定期売買を含めた解除を府知事に重ねて要請し、さらに大蔵卿に対しても要請を行う予定である。
323 c	【里昂通信・養蚕の景況】　6月25日発。
323 d	【紐育電報・茶生糸市況】　7月29日発。
323 e	【上州前橋糸市の景況】　8月9日開催。
323 h	【日支生糸の価格推移】　1875年以来の日本生糸と「支那」生糸との価格推移。「支那」生糸が1割1分安。「がゼット」新聞より。
323 i	【英国「メルカンタイル・バンク」横浜支店の再開】　昨年閉店の支店を11月頃に再開の予定。
323 k	「上海商同会御国産見本陳列所開場広告」　〔広告〕
324 c	【上州前橋糸市の景況】　14日開催。
324 d	【岩代庭坂生糸市の景況】　12日開催。

第2表　記事の内容　　（その28）

号数	内　　容
324 g	「上海商同会御国産見本陳列所開場広告」　〔広告〕
325 b	【明治12年度各港輸出入表】　大蔵省関税局編纂の12年度（明治12年7月1日～13年6月30日）の各港輸出入年度表の要点紹介。
325 e	【英国本年6月の輸出入】　英国商務局月表による。
325 f	【合衆国商業の繁盛】　穀類輸出高・動物輸出高・懐中時計製造個数
326 c	【里昂よりの通信】　7月11日出。欧州生糸市場の動向・日本生糸の評判などを詳述。
326 d	【新聞原稿逓送に関する注意】　「報知新聞」より。
326 e	【越後見附町通信】　8月21日出。降雨無く米況は人気よし。
326 f	【伊勢地方の藍作】　「伊勢新聞」より。
326 g	【上州前橋糸市の景況】　8月19日開催。
326 i	【兵庫港現在米高】　8月18日調。
326 k	【英国より輸入の金物類】　本年上半季の金物類品目別輸入数量
327 a	【日本茶の荷造り・色合】　《倫敦よりの書信中に日本茶の荷造り方并に其色合の良否等を詳細に指示し来りしものあり》。その摘訳。
327 c	【米商会所定期売買10月1日より解停】　本日東京府知事より兜町・蛎殻町両米商会所に対し通達。
327 d	【新米相場雑報】　大坂で酒造家が青田買他。
327 f	【東京株式取引所の役員改選】　頭取渋沢喜作・肝煎福地源一郎辞任。
327 g	【上州前橋糸市の景況】　8月24日開催。
327 h	【勢州松坂通信】　23日出。米・雑穀・水油・操綿・鰹などの市況。
328 a	【各地の二百十日】　天候と米況
328 e	【朝鮮釜山通信】　8月17日出。
329 a	「商業の変遷」　我が商業社会の形成《変遷の源因より順次臚列して以て勢ひの赴く所を開示せん》。
329 d	【上州前橋糸市の景況】　8月28日開催
329 e	【羽後湯沢よりの通信】　養蚕の景況
330 b	【株式取引所仲買へ臨時検査】　仲買中或る三四軒へ突然査官の取調。
330 c	【豆州よりの通信】　豆州相州駿遠地方の諸作。先月25日の風雨の影響はな

第2表　記事の内容　　（その29）

号数	内　　容
	し。
330 e	【信州長野の商況】　生糸・金融
331 a	【各地の二百二十日】　天候と米況
331 b	【岩代掛田の近況】　金融・生糸
331 c	【上州前橋糸市の景況】　9月4日開催
331 d	【イタリアよりの通信】　7月24日出。養蚕の景況。
331 e	【府下8月の米況】　8月の東京への米穀流入高・前月持越高・消費高・貯蔵高・相場等。
331 g	【株式取引所仲買へ臨時検査・続報】　4名の仲買に帳簿付落等があり処分を行う旨取引所が掲示。
332 a	【新井白石の貨幣改鋳論】　新井白石「折焚柴」より貨幣改鋳論を抄録。
332 b	【府下の金融】　聊か緩むが商業は甚だ不印。
332 c	【株式取引所仲買を除名】　前号で報じた4名を除名。
332 d	【大坂北在の稲作模様】　11日出、堂島よりの来信による。
332 e	【羽前米沢の通信】　9日出。稲作模様・養蚕景況
332 f	【朝鮮釜山浦よりの通信】　9月6日出。朝鮮政府の禁令にもかかわらず日本向けに米の売込が隆盛。
333 b	【横浜の市況】　蚕種は未だ相場立たず。銀貨は急騰し臨時休業。
333 c	【7月中各港輸出入表】　大蔵省関税局編纂の明治13年7月中各港輸出入表の速報。99万円余の入超。
333 f	【上州前橋糸市の景況】　9月9日、14日開催。
334 a	「銀貨騰貴」　米価高騰により農家が富裕となり輸入品需要が増大した。他方で、米価に連れて諸物価が高騰し、輸出は不調となった。古金銀も底をつき輸出入の差額は銀貨で補填せざるを得ずその騰貴が必然となっている。銀貨変動により商估社会の受ける損害は甚大であが、問題は《其基本よりして改設》しなければならず、《数年の後を期すも全体の快復を求むるものなり》。
334 b	【銀貨取引休止】　銀貨非常の騰貴のため、横浜では取引商申合1週間の休止。神戸も20日間の休止。
335 e	【上州前橋糸市の景況】　9月19日開催
335 f	【岩代若松の黒葡萄】　同地で大量に産する黒葡萄の大半が消費の途なく腐

第2表　記事の内容　　（その30）

号数	内　　容
	朽に委ねられている。これを利用し葡萄酒醸造業を起こせないものか。「報知新聞」記事の転載。同感と寸評を付す。
335 g	【里昂よりの通信】　8月5日出。里昂・倫敦の生糸市況。
336 a	「千八百七十九年貿易の要領」　「ヂヤツパン、ウヰキリー、メール」新聞掲載の英国領事報告書より摘訳。
336 c	【上州前橋糸市の景況】　9月24日開催。
336 d	【兜町米商会所現米直取引の手順】　10月1日より開始の現米直取引の順序を制定して頒布。
337 a	【東京米商会所の改正格付】　《東京米商会所の改正格付に不穏当の更改あり》として批判。
337 b	【現米蔵預証の証拠金代用】　米商会所定款申合規則の改正で、限月米売方は現米蔵預証を証拠金の代用にできることになった。その証書雛形を掲載。
338 a	「東京商法学校」　東京府会が府知事よりの提案を受け商法講習所費額増加を議決したことは慶賀すべきことである。商法講習所の拡充にあたっては、欧米の簿記法算術英語を専らとする従来のやり方を改め、まず第一に今日わが国の商家に適切なる事項を教育すべきである。また教育内容を定めるにあたっては、東京商法会議所に諮って審案熟議させることが望まれる。
338 b	【上州前橋糸市の景況】　9月29日開催。
339 b	【米格付問題・続報】　東京府庁が頭取（代人）を呼出して尋問。12月より再改正の動き。
339 d	【米の作柄】　3日夜の暴風雨の影響は軽微
339 e	【上州前橋糸市の景況】　10月4日開催
340 a	【府下9月の米況】　9月の東京への米穀流入高・前月持越高・消費高・貯蔵高・相場等。
340 b	【制虫袋】　京都府高島信満氏が虫除け袋を考案。同氏の「制虫袋薬法并代価及興益概算略表」と常平局による「制虫袋試験書」を掲載。
340 c	【紙の入荷高】　本年1月～8月に各地より府下へ入荷の高。
340 d	【紐育生糸相場】　8日発電信
340 e	【上州前橋糸市の景況】　10月9日開催。
340 f	【浜町に新設の魚鳥市場】　未だ寂寥たる景況にある。生魚以外の取り揃えが不十分であることを指摘する声あり。

第2表　記事の内容　　（その31）

号数	内　　容
341 a	【農家富裕と貿易の権衡】　本年の良好な作柄が見込まれ、農家の富裕が期待される。農家の富裕は輸入品増加に繋がるということを主張する向きがあるが、それは愚論である。農家の富裕は農産増殖の基であり、農産増殖によって輸出が増加し、貿易の均衡が得られるのである。
341 c	【石炭油相場】　紐育と横浜。横浜の或商館が大量の石炭油を売却せずに辛抱。
341 e	【米商会所の合併】　兜町、蛎殻町両米商会所が合併。
342 a	【東京米商会所代米格付表再改訂】　12月限より再改正。
342 g	【蚕種の市況】　《目今白眼合の姿にて外国人への売込は更になし》
342 h	【米商会所の合併・訂正】　前号の記事は事実無根の流言と取消。
342 j	【上州前橋糸市の景況】　10月14日開催。
342 k	【英国本年1月から7月の輸出入】　英国商務局報告による。
342 l	【合衆国貨幣鋳造額】　昨年度の鋳造総額
342 m	【里昂よりの通信】　8月末出。里昂生糸市況・ミラノ地方の養蚕収穫高。
343 c	【米国造幣局報告書】　1878年7月～1879年6月の年度報告。
343 e	【廈門甘蔗に暴風害】　9月28日に非常の暴風があり、甘蔗苗木に損害。
344 a	「海外荷為替」　正金銀行が海外荷為替業務を開始することを歓迎。海外荷為替にあたり注意すべき点、望まれることなどを詳説。
344 b	【東京米商会所代米格付表再改訂・続報】　格付表を入手したので全文を掲載する（2面に後掲）。《先ず至当の改正と申すべし》と論評。
344 f	【風帆船会社開業】　昨日東京小網町に開業。
344 g	【里昂よりの通信】　9月5日出。織物業の動向。
344 h	【上州前橋糸市の景況】　10月19日開催。
345 b	【9月中各港輸出入表】　大蔵省関税局編纂の明治13年9月中各港輸出入表の速報。137万円余の入超。
345 d	【上州前橋糸市の景況】　24日開催
345 e	【朝鮮釜山浦よりの通信】　10月18日出。諸物価高値に向かう。
346 b	【合衆国への日本茶の輸入】　紐育「メルカンチル・チョルナル」より。
346 c	【1月～6月各港輸出入額】　〔318号記事とほぼ同じ内容〕
346 d	【人命請負会社近日開業の見込み】　若山儀一・朝比奈閑・水原善三郎・茂

第2表　記事の内容　　（その32）

号数	内　　容
	木總兵衛・三野村利助が発起人となり許可を得、日東保生会社と称して近日開業。本店は浜町二丁目。
346 e	【北越よりの来状】　現下の米取引事情
346 f	【米商会所仲買人の景況】　証拠金の負担が大きく売買が低迷。身元金・証拠金制度の改革を求める声がある。
347 b	【倫敦市場の前橋提糸二番半相場】　横浜各商館に提糸二番半12志6片との電報が入り諸新聞もこれを掲載したため動揺が起きていた。三井物産倫敦支店に電信で問合せたところ《前橋提糸二番半十五志にて相場のみ買入の附値は十四志》とのことである。
347 c	【紐育より電報】　10月30日出。生糸の売買は甚だ少なく相場も低落、茶も売込多からず。
347 d	【上州前橋糸市の景況】　11月4日開催。
347 f	【横浜の商況】　「外国人報告」抄訳。〔従来「横浜商況」欄に掲載されていたものが雑報扱いで「東京商況」欄に。〕
348 a	【日東保生会社】　社友寄書の形で、同社事業を宣伝。ただし、同社の「解約割戻しの方法」には疑問を呈す。
348 b	【府下10月の米況】　10月の東京への米穀流入高・前月持越高・消費高・貯蔵高・相場等。
348 c	【上州前橋糸市の景況】　11月9日開催
348 e	【南京米の競売】　昨日横浜フランス波止場で競売された南京米の落札価格。
349 c	【横浜銀貨相場中止】　金融逼迫で相場下落が始まり紛擾発生し休業。
349 f	【岩代若松よりの通信】　諸物価騰貴
350 a	【物品貿易の差額外に於て我が金銀の海外へ流出するもの】　物品貿易外に海外へ流出するものとして、外国公館費、外国人雇給料、保険料、問屋仲間口銭、運賃の5項を指摘し、《輸出表に明現せざる保険料運賃等の如き空しく外商に攫取し去らるる所のものを以て漸次我に収め遂に商権を我に恢復せん》ことを説く。
350 b	【横浜パピエ商会の生糸買入れ】　横浜パピエ商会による大量の生糸買入れの意図を忖度。
350 c	【横浜外商の生糸買入れ】　「ガゼット」新聞より。
350 e	【上州前橋糸市の景況】　11月14日開催

第2表　記事の内容　　（その33）

号数	内　　容
351 a	【物品貿易の差額外に於て我が金銀の海外へ流出するもの】（続き）　前号で指摘した5項目のうち、とりわけ運賃の重要性を論じ、日本人の手による海運確立が急務であると説く。
351 b	【上州前橋糸市の景況】　11月19日開催
351 d	【1880年イタリア養蚕の結果報告】　イタリア「パドー」養蚕学校校長ベルソン氏の調査になる報告書を紹介。
352 b	【横浜銀貨相場の乱高下】　《斯の如く泣き流行となりては全く相場は無茶苦茶にて只是を以て賭けするものは兎も角も真に取引を為さんとするものは実に云うべからざる困難を受る》
352 d	【各地米商会所出京委員の集会】　証拠金改定などにつき議論
352 f	【越中伏木港よりの通信】　22日出。米・肥物・綿その他。
352 g	【横浜の商況】　「外国人報告」抄訳。
353 d	【松戸在老農の談話】　農家金融は弛緩。米価高値により農家採算が好転。それにつれて田畑の値も上がる。
353 e	【上州前橋糸市の景況】　11月24日開催
354 a	「支那貿易盛にす可し」　海外貿易というと欧米との貿易にばかり目が行きがちであるが、「支那」との貿易は年々増加しており今後ますます有望である。しかるに、それを担っているのはほとんどが《外国人及支那人》である。日本人商人が《此に注目するは方今の緊務》である。
354 b	【風帆船会社神倉丸函館より帰港】　保険が付されたことで信用が厚くなり積荷が頗る多く集まり過半を積み残す。
354 c	【島村組蚕種直輸出の試み】　28日出帆の「ボルガ」号で、島村組田島武兵衛・田島彌三郎両名が蚕種57000枚を携えてイタリアへ出発。それを知って、これまで《白眼合》でいた横浜のイタリア商人が買い始めた。
354 e	【信州上田よりの通信】　米・生糸・蚕種・桑田・その他諸物価・金融
354 f	【上州前橋糸市の景況】　11月29日開催。
355 a	「支那内地釐金税の事」　三井物産上海支店調査。
355 b	「仏国製糸所工女の徒党」　〔出典不明〕
355 c	【横浜の商況】　「外国人報告」抄訳
355 d	【上州前橋糸市の景況】　12月4日開催。
356 a	【船舶の火災】　海上運輸に於て最も恐るべきものは火災であり、特に注意

第2表　記事の内容　　（その34）

号数	内　　容
	すべきは石炭からの発火である。石炭より発火した近例数件を西洋新聞から訳出し、海運に従事する者への警告となす。
356 f	【大坂で紙幣払底】　「神戸新報」より。
356 h	【紐育よりの通信】　11月11日出。大統領選改選共和党勝利で製織家は大いに安心。生糸・茶の市況。
356 k	【横浜大火】　昨夜の大火で取引所半焼となり本日休業。其他諸商も大半休業。〔「横浜商況」欄〕
357 c	【横浜外国商人の元方買付】　日本人商人の直輸出に対抗し、横浜外国商人が日本人番頭の名義を以て元方の買付けを開始。
357 d	【横浜の商況】　台湾糖・柴昆米・石油
357 e	【昆布の不作】　7日出、函館よりの通信による。
357 f	【上州前橋糸市の景況】　12月9日開催
357 g	【豊国丸の火災】　「ガゼット」新聞より。
357 h	【府下11月の米況】　11月の東京への米穀流入高・前月持越高・消費高・貯蔵高・相場等。
358 b	【上州前橋糸市の景況】　12月14日開催。
358 c	【米国市場で日本茶余剰の見込み】　「北清日々新聞」より
358 d	【カルカッタ茶の市況】　「北清日々新聞」より
358 e	【仏国の輸出入高】　本年1月より9月までの輸出入貿易高
359 a	【巴里よりの通信】　10月30日出。
359 b	【里昂よりの通信】　10月30日出。製糸家工女の徒党、木綿混りの絹物・毛織物の流行等。
359 c	【里昂の絹物売買額】　里昂商法会議所報告による1879年の販売額。
359 d	【米穀貯蔵法】　茨城県下渡辺半平氏よりの寄稿
359 e	【上州前橋糸市の景況】　12月19日開催
359 f	【ロシアの不換紙幣整理】　倫敦「エコノミスト」新聞による。
360 b	【東京商法会議所臨時会議開催】　22日に開催。
360 c	【商務局長河瀬秀治君帰京】　米・英・仏・独・白耳義・瑞・伊・豪への出張より帰京。
360 d	【加州小松よりの通信】　18日出。

第2表　記事の内容　　（その35）

号数	内　　容
361 e	【神戸の金融必迫】　「神戸新報」による。

注）1.《　》は記事からの引用を、〔　〕は作成者による注記をしめす。
　　2.表記は、原文を尊重したが、用字は通用の字体に換えたところもある。